

第2章

青森ねぶた・弘前ねぶたの子ども意識と祭りへの子どもの「思い」調査 ～青森市・弘前市公立小・中・高校生4,000名～

(1) データ報告書

弘前大学教育学部「ねぶた・ねぶたと学校教育研究」プロジェクト
研究代表 弘前大学教育学部・教授 大谷良光
ねぶた師内山龍星・弟子 立田健太

目次

I. ねぶた・ねぶたの子ども意識、子どもの祭りへの思い（意見）調査データ	
第一章 青森市小学校4、6学年・中学校2学年・高等学校1学年の調査結果	
1. 全子ども集計結果	1
2. 学年別集計結果	3
(1)～(6) (質問1から21)	3
(7)ねぶた祭りをもっと盛んにするための意見とアイデア (質問22)	12
(8)地域ねぶた祭りをもっと盛んにするための意見と合いアイデア (質問23)	14
第二章 弘前市小学校4、6学年・中学校2学年・高等学校1学年の調査結果と考察	
1. 全子ども集計結果	16
2. 学年別集計結果	18
(1)～(6) (質問1から21)	18
(7)ねぶた祭りをもっと盛んにするための意見とアイデア (質問22)	28
II. ねぶた・ねぶたと学校の関わり調査データ	30

I. ねぶた・ねぶたの子ども意識、子どもの祭りへの 思い(意見)調査データ

第一章 青森市小学校4、6学年・中学校2学年 ・高等学校1学年の調査結果

1. 全子ども集計結果

意識調査アンケート項目	表 1 (2105名対象)					
	段 階 %					
	①	②	③	④	⑤	
(1) ねぶた祭りの運行について						
1	ねぶた祭り・町内ねぶたの、太鼓、笛、鉦などの囃子が素晴らしいと思う。	55	30	10	3	2
2	ねぶた祭り・町内ねぶたのハネト・ばけとなどの「踊り」が素晴らしいと思う。	34	39	18	5	4
3	ねぶた祭り・町内ねぶたの、ねぶた本体・前ねぶたなどが素晴らしいと思う。	59	25	11	2	2
4	私は、学校の授業や行事においてねぶた祭りを取り入れた方がいいと思う。	32	22	24	10	12
(2) ねぶた制作について						
5	ねぶたや前ねぶたの制作をお手伝いすることが、素晴らしく楽しいことと思う。	26	27	34	8	5
6	金魚ねぶたや灯ろうねぶたを制作することが、素晴らしく楽しいことと思う。	27	29	31	8	6
7	ねぶたを制作する素晴らしさ楽しさは、骨組みを組み立てることにあると思う。	20	25	40	9	7
8	ねぶたを制作する素晴らしさ、楽しさは、デザインと色づかいにあると思う。	46	27	21	3	3
9	学校の授業や行事において、ねぶた制作を取り入れた方がいいと思う。	32	23	24	10	13
(3) ねぶた祭りと社会について						
10	青森ねぶたが、世界に誇れる祭りと思う。	61	23	10	2	3
11	青森ねぶたが、日本有数の祭りと思う。	66	20	9	2	2
12	青森ねぶたが、青森市の発展にとって重要な祭りと思う。	63	22	10	2	2
13	古くから伝わるお祭りを大切にすることが必要だと思う。	67	19	10	2	2
14	古くから伝わるお祭りを、自分の子どもたちに伝えていく必要があると思う。	56	25	13	3	3
15	ねぶた制作や祭りでいろいろな人と交流ができることは素晴らしいと思う。	47	28	18	4	4
16	将来ねぶた師になれるならば、なってみたいと思う。	9	10	23	17	41

*段階 ①強くそう思う ②どちらかといえばそう思う ③わからない ④どちらかといえばそう思わない ⑤そう思わない
①+②で、肯定的と評価

(4) ねぶた祭りに対する思い(意見)について

17.大型ねぶたの運行コースについて

現在のままでよい		長くした方がよい		短くした方がよい		その他	
人	%	人	%	人	%	人	%
1334	64	597	29	109	5	46	2

18.大型ねぶたの運行時間（19:10～21:00）について

現在のままでよい		長くした方がよい		短くした方がよい		その他	
人	%	人	%	人	%	人	%
1170	56	764	37	110	5	48	2

19.大型ねぶたのスタートについて

スタート地点を決め、 一台ずつの運行がよい		現在のように一斉ス タートがよい		その他	
人	%	人	%	人	%
435	21	1601	76	46	2

20.あなたがねぶた祭りの審査委員であったとすれば、ねぶた祭りの何に注目して評価しますか

A.主にねぶた本体		B.主に団体全体の 運行形態		C.ねぶた本体と団 体全体の運行形態		D.その他	
人	%	人	%	人	%	人	%
559	27	172	8	1308	62	54	3

20-1.20の質問でAまたはCと答えた方。ねぶた本体の何を主に評価しますか。3つ以内（複数回答）

面（顔）		構図などのバラ ンス		迫力		デザイン・ 色づかい		送り絵		その他	
人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
632	14	901	19	1575	34	1366	29	172	4	18	1

20-2.20の質問でBまたはCと答えた方。ねぶた祭り運行形態の何を主に評価しますか。3つ以内（複数回答）

ハネトの跳ね方		ハネトの花笠		囃子		ねぶたの回し方		全体のまとまり		その他	
人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
663	19	135	4	977	28	678	19	1012	29	28	1

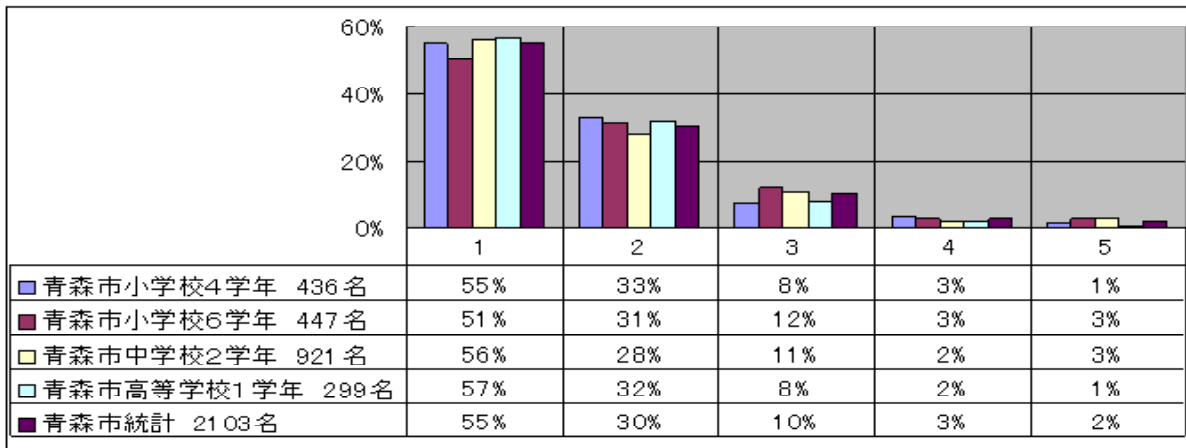
21.ねぶたを制作しているラッセランドに行って、制作風景を見た事がありますか。

ある			ない	
人	%	平均回数	人	%
921	44	2.1	1153	56

2. 学年別集計結果

(1) ねぶた祭り・運行についての意識

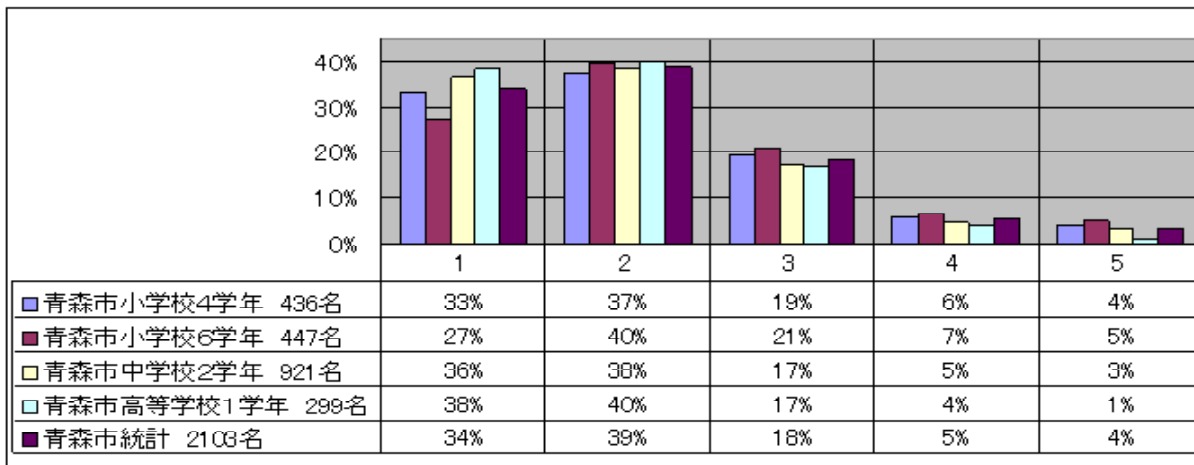
① 質問1:ねぶた祭り・町内ねぶたの、太鼓、笛、鉦などの「囃子」が素晴らしいと思う



*段階 1 強くそう思う 2 どちらかといえばそう思う 1 + 2 で、肯定的と評価
3 わからない 4 どちらかといえばそう思わない 5 ーそう思わない

図 1

② 質問2:ねぶた祭り・町内ねぶたの、ハネト・ばけなどの「踊り」が素晴らしいと思う



*段階 1 強くそう思う 2 どちらかといえばそう思う 1 + 2 で、肯定的と評価
3 わからない 4 どちらかといえばそう思わない 5 ーそう思わない

図 2

③ 質問3:ねぶた祭り・町内ねぶたの、ねぶた本体・前ねぶたなどがすばらしいと思う

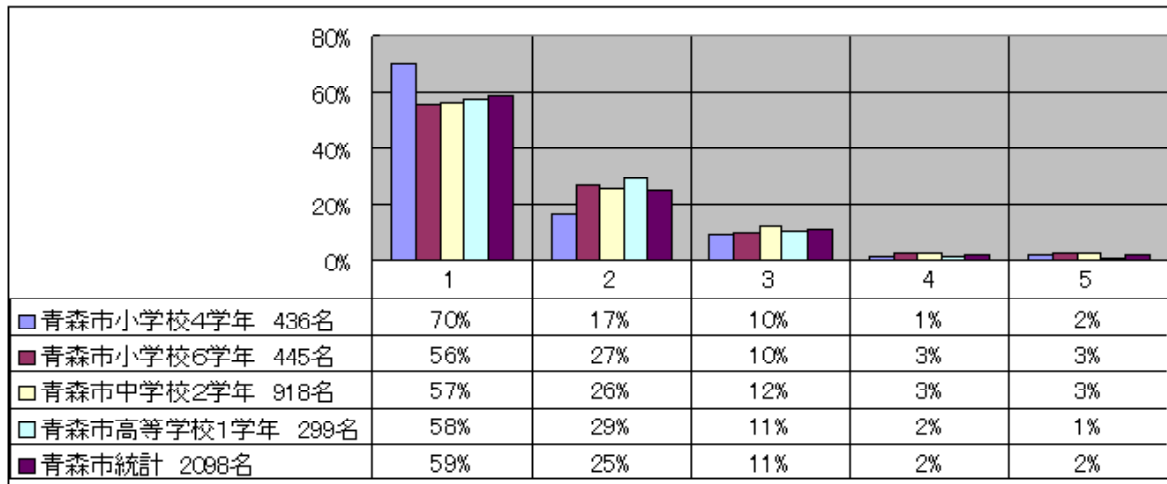


図 3

(2) ねぶた制作についての意識

① 質問5:ねぶたや前ねぶたの制作をお手伝いすることが素晴らしく、楽しいことと思う

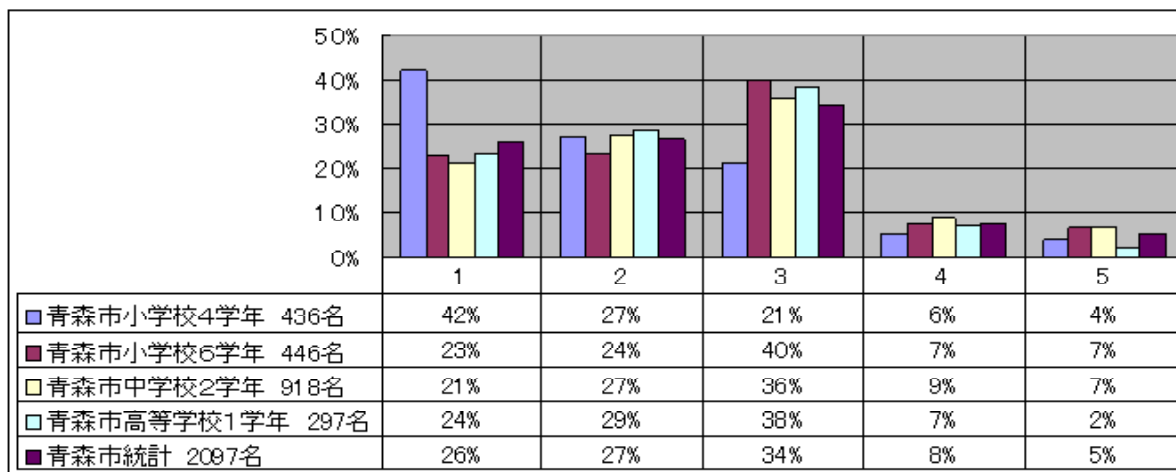


図 4

② 質問6:金魚ねぶたや灯籠ねぶたを制作することが素晴らしく、楽しいことと思う

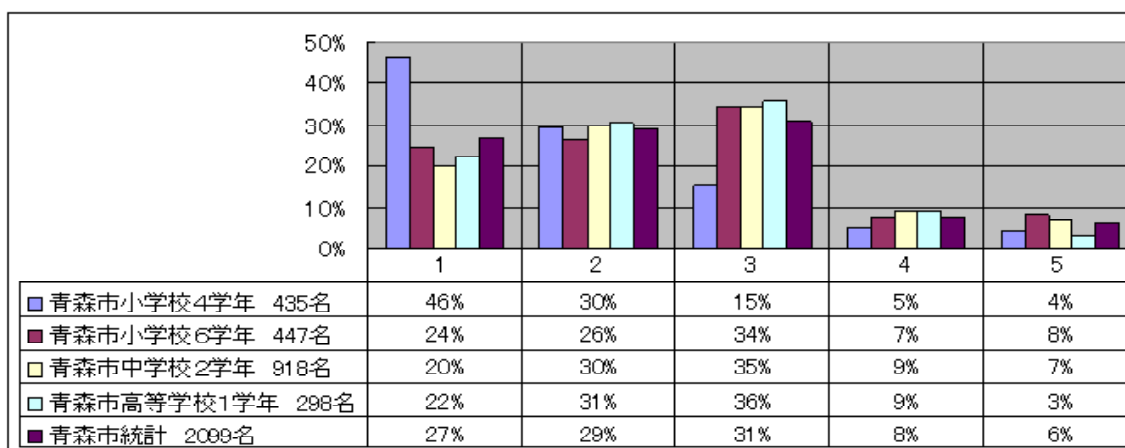


図 5

③ 質問7:ねぶたを制作する素晴らしさ、楽しさは、骨組みを作り組み立てることにあると思う

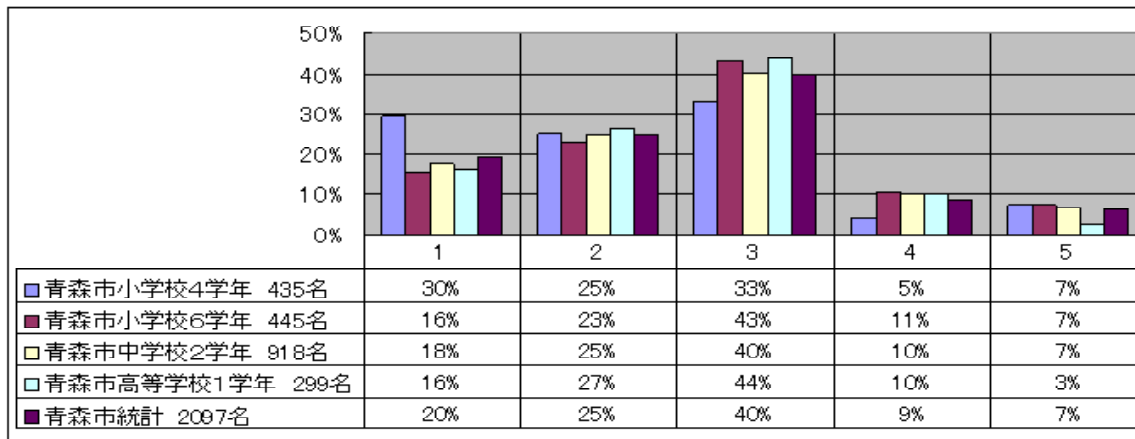


図 6

④ 質問8:ねぶたを制作する素晴らしさ、楽しさは、デザインと色づかいにあると思う。

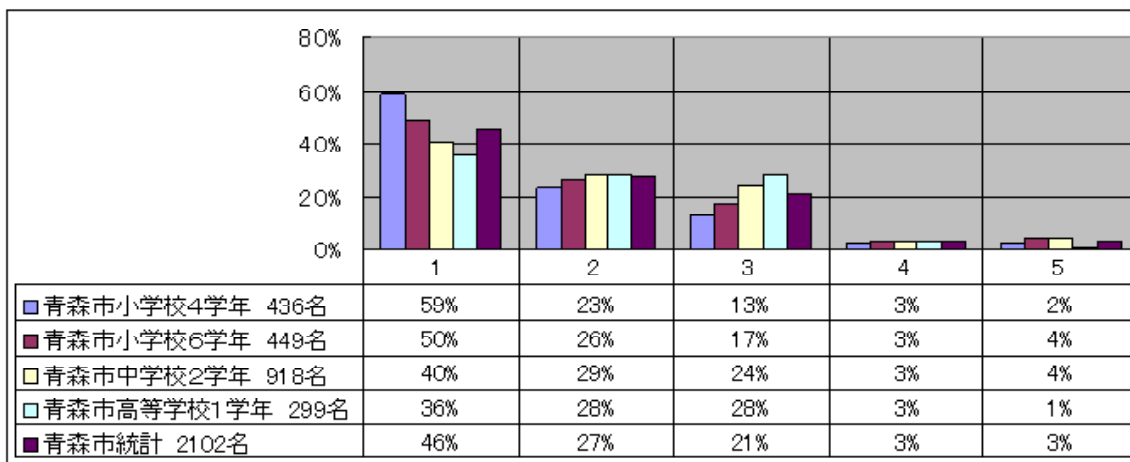


図 7

(3) ねぶた制作・運行を学校の授業で取り入れることについての意識

① 質問4:学校の授業や行事において、ねぶた祭りを取り入れた方がよいと思う

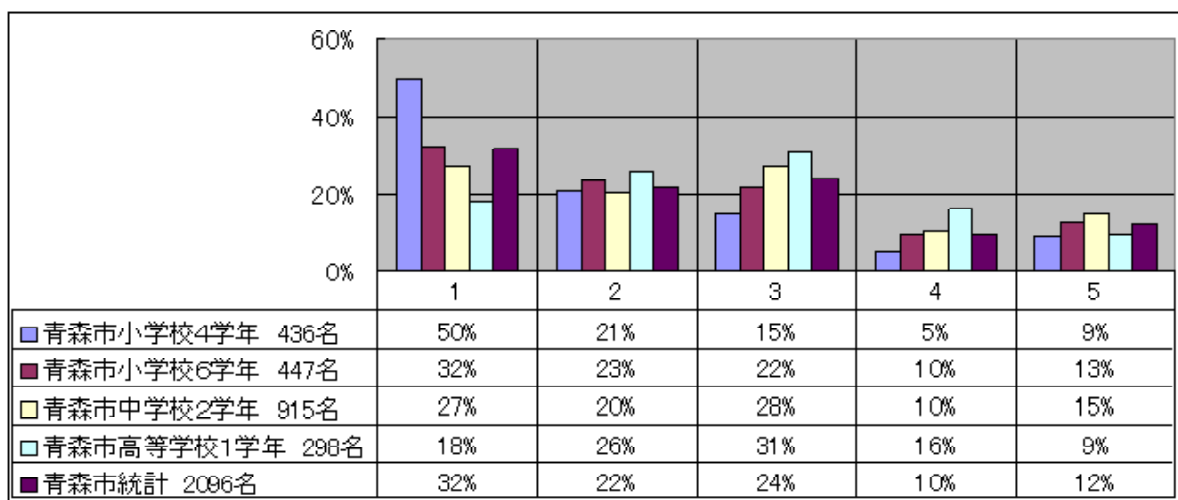


図 8

② 質問9:学校の授業や行事において、ねぶた制作を取り入れた方がよいと思う

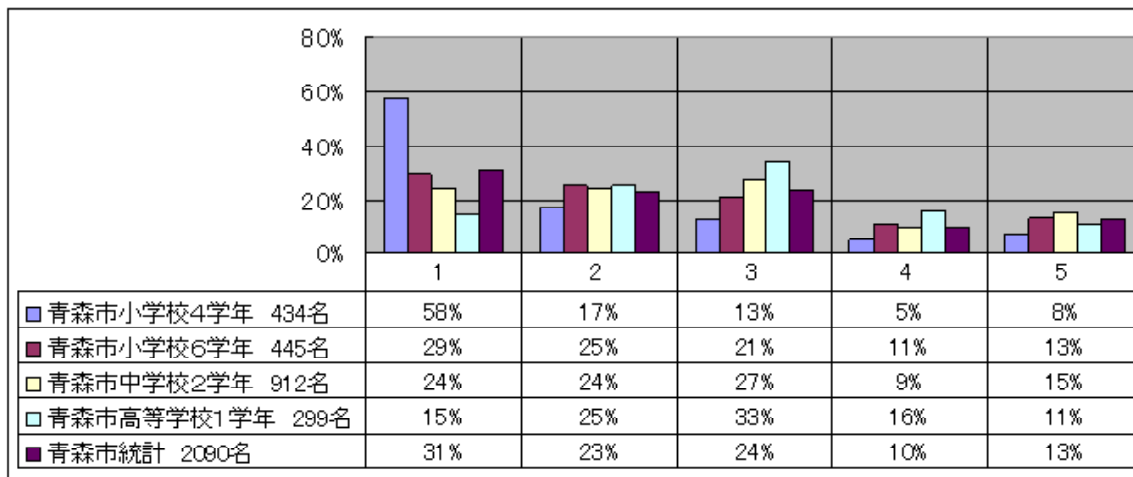


図 9

(4) ねぶた祭りと社会についての意識

① 質問10:青森ねぶたが、世界に誇れる祭りだと思う

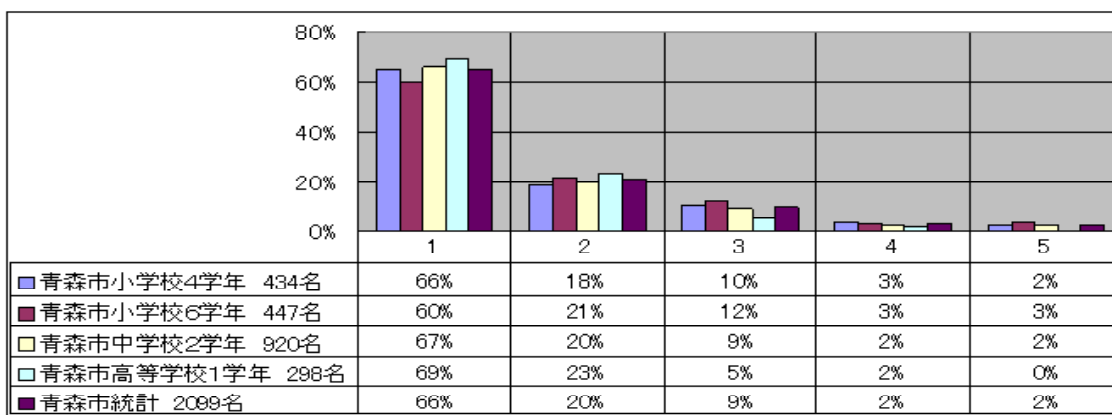


図 10

②質問 11 青森ねぶたが、日本有数の祭りだと思う

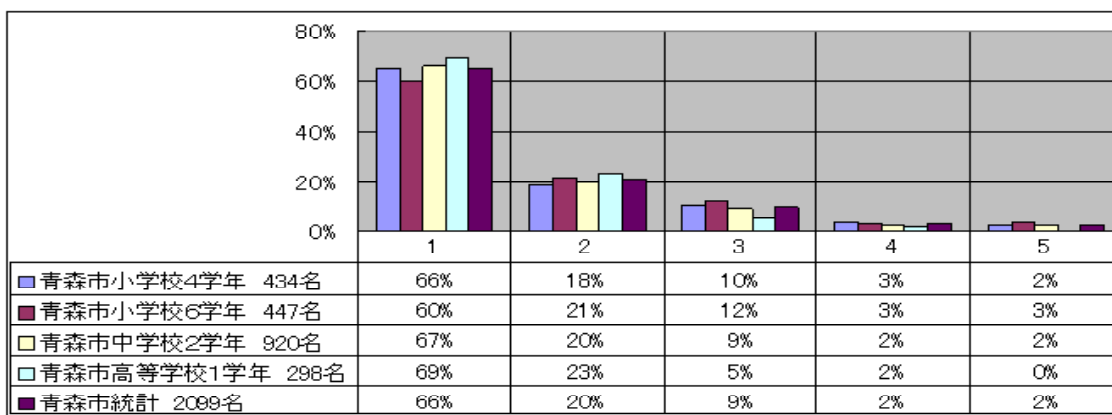


図 11

③ 質問12:青森ねぶたが、青森市の発展にとって重要な祭りだと思う

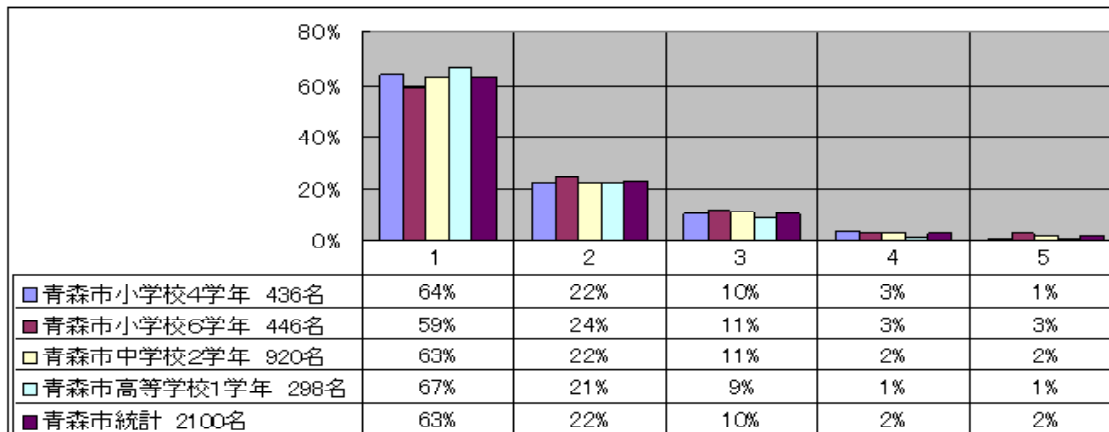


図 12

④ 質問13:古くから伝わるお祭りを大切にすることが必要だと思う

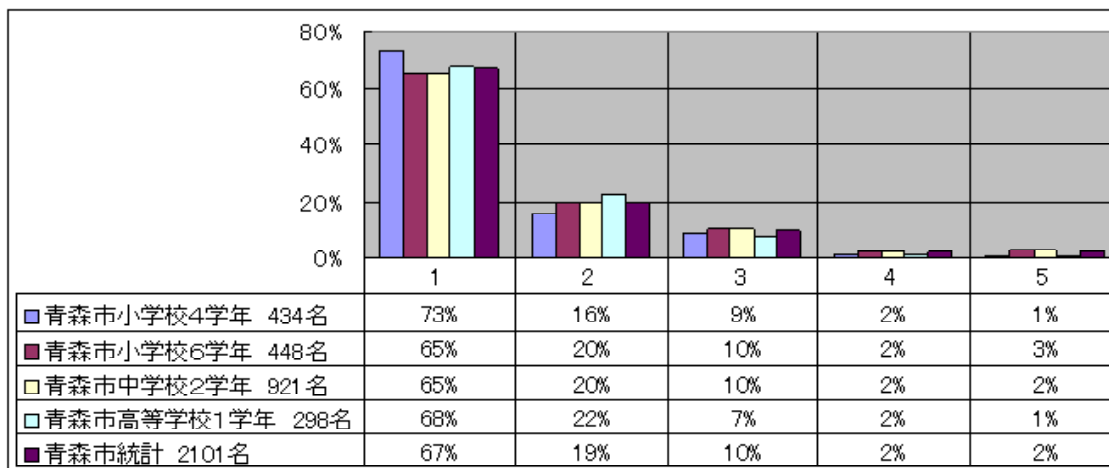


図 13

⑤ 質問14:古くから伝わるお祭りを、自分の子どもたちに伝えていく必要があると思う

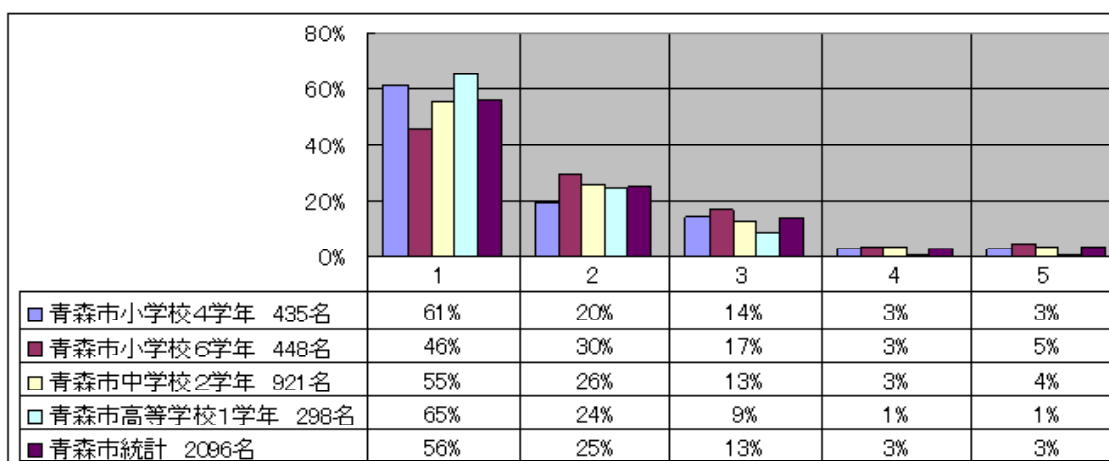


図 14

⑥ 質問15:ねぶた制作や祭りでのいろいろの人と交流が出来ることは素晴らしいことと思う

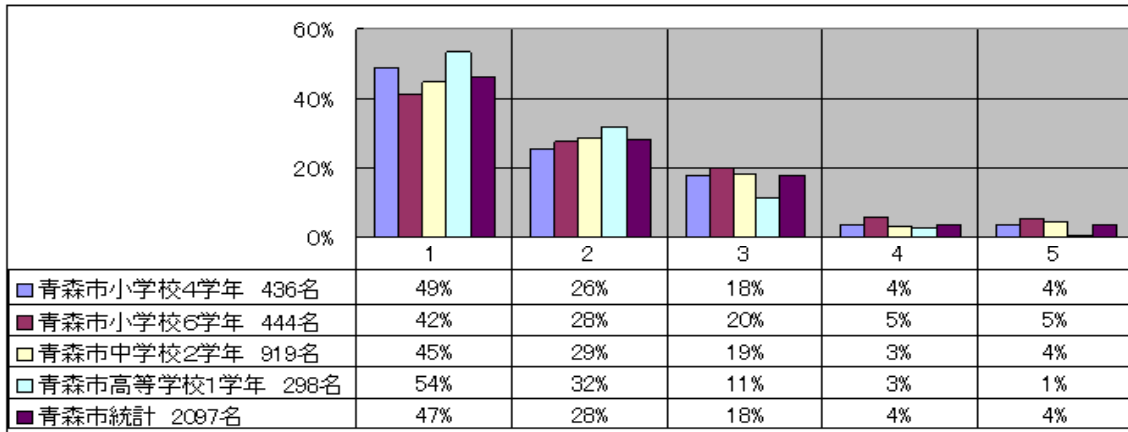


図 15

(5) ねぶた祭りの運行・評価についての思い (意見)

① 質問17:大型ねぶた祭りの運行コースについて

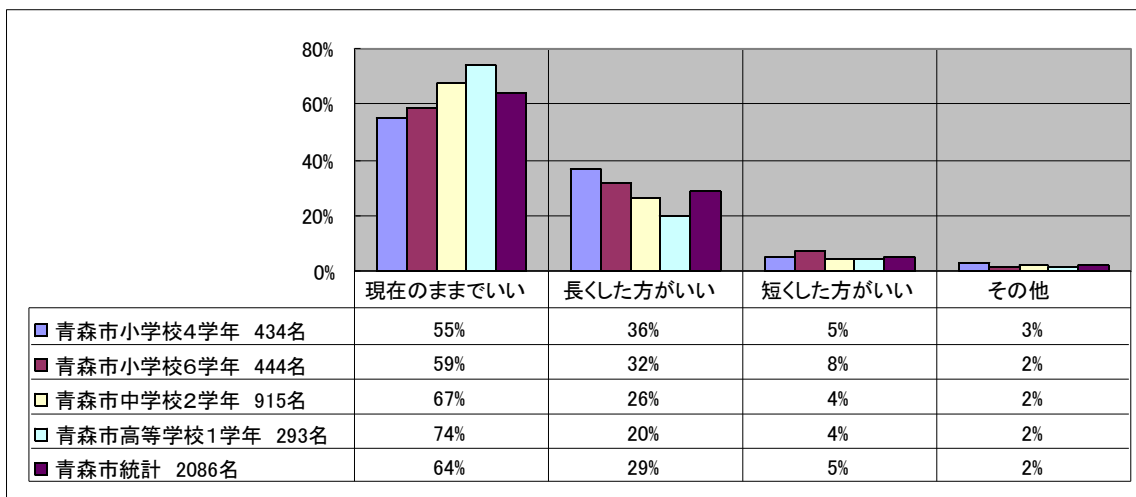


図 16

② 質問18:大型ねぶた祭りの運行時間(19:10~21:00)について

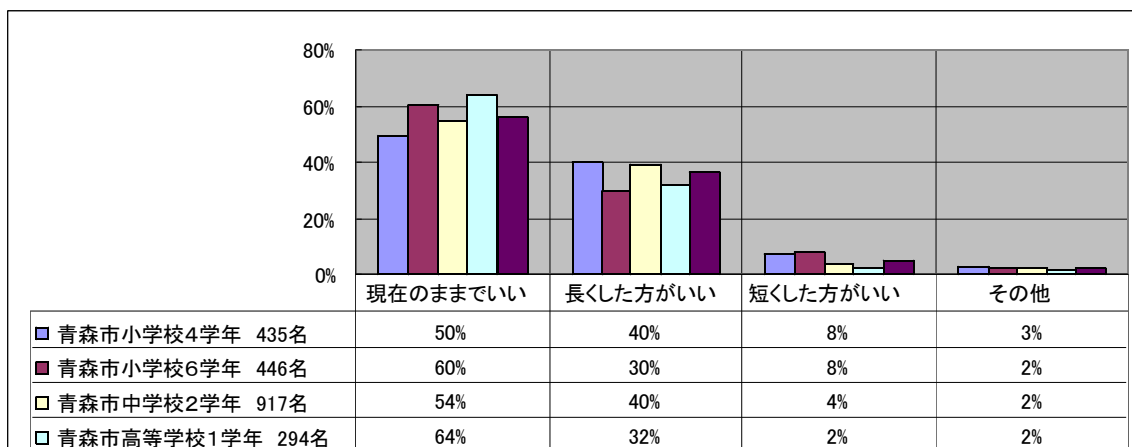


図 17

③ 質問19:大型ねぶた祭りの運行スタートについて

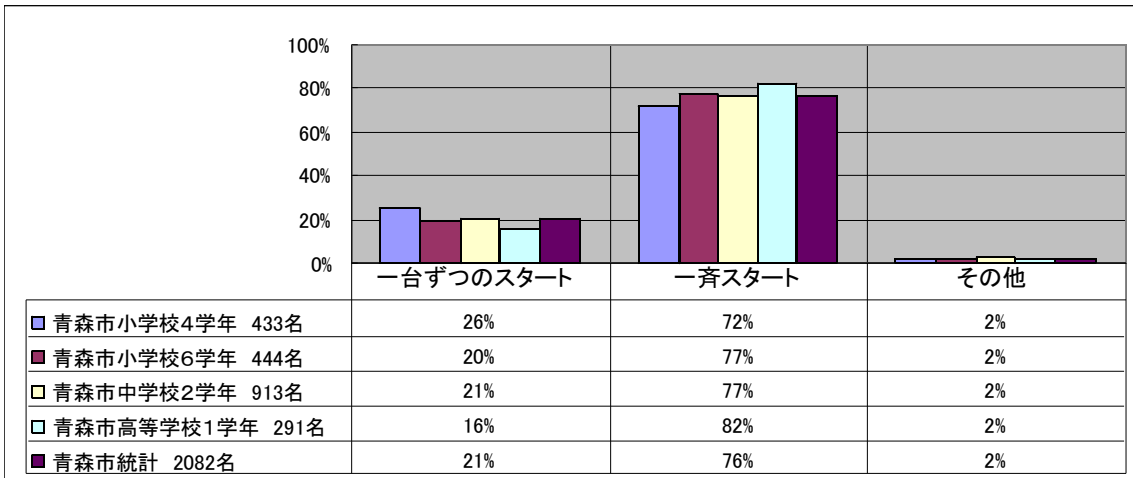


図 18

④ 質問20:ねぶた祭りの審査委員であったとすれば、ねぶた祭りの何に注目して評価するか

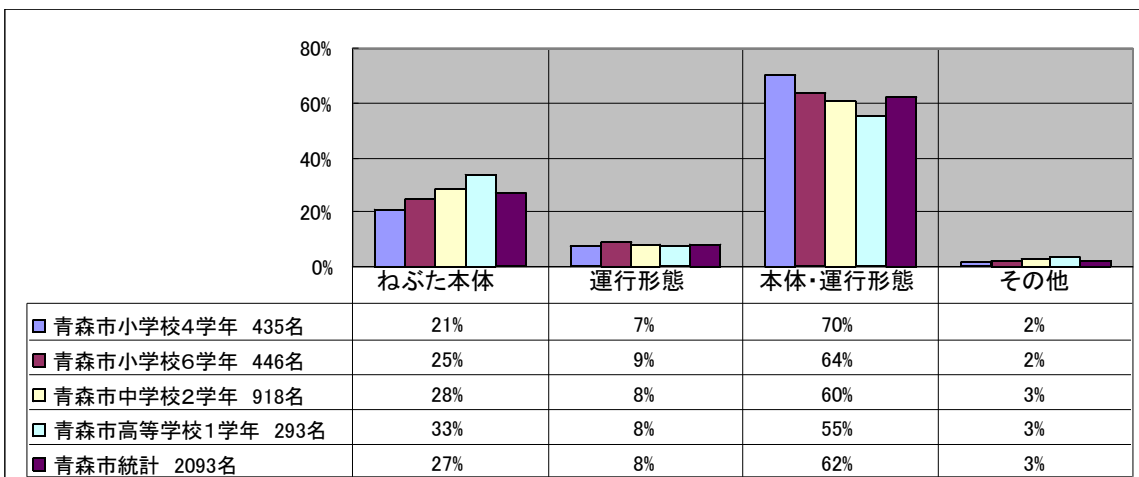


図 19

⑤ 質問20-1:ねぶた本体の何を評価するか(3つ以内の複数回答)

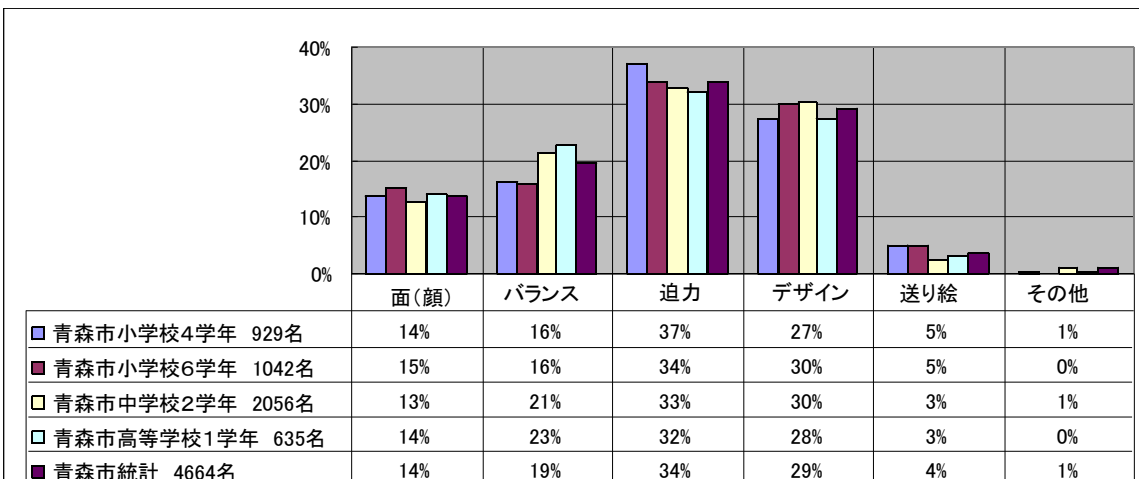


図 20

⑥ 質問20-2:ねぶた祭りの運行形態の何を主に評価するか(3つ以内の複数回答)

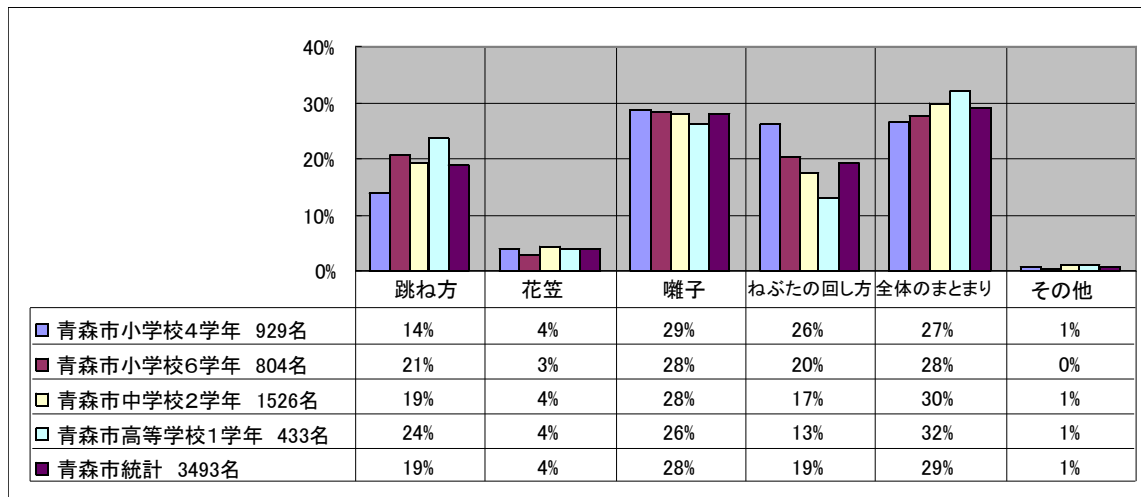
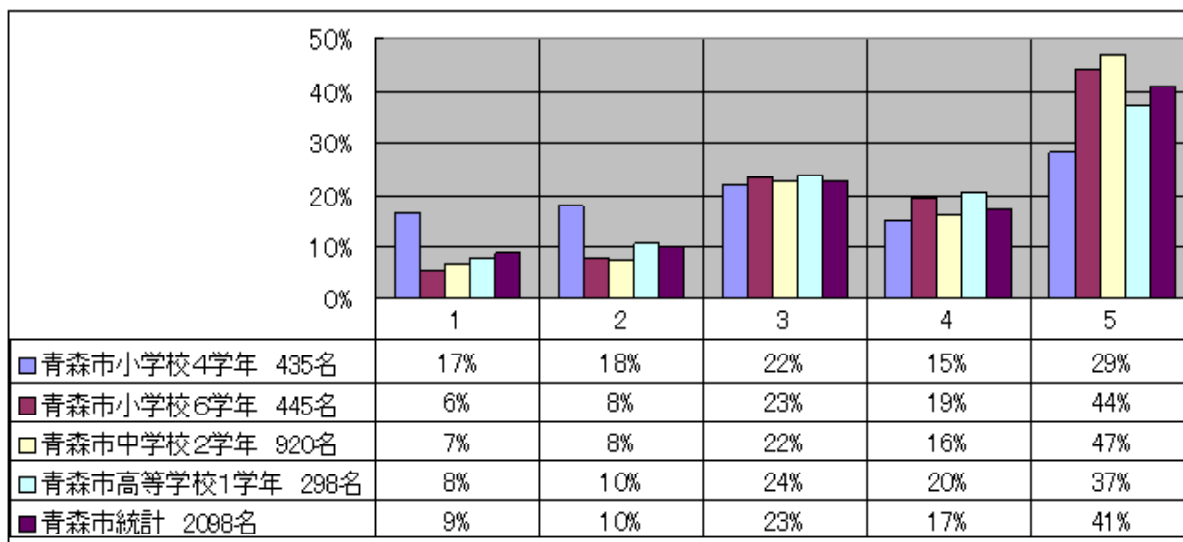


図 21

(6) ねぶた制作・ねぶた師への思い (意識)

① 質問16:将来ねぶた師になれるならば、なってみたいと思うことか



*段階 1-強くそう思う 2-どちらかといえばそう思う 1+2で、肯定的と評価
3-わからない 4-どちらかといえばそう思わない 5-そう思わない

図 22

② 質問21:ねぶたを制作している小屋(ラッセランド)に行って、制作風景を見たことがあるか

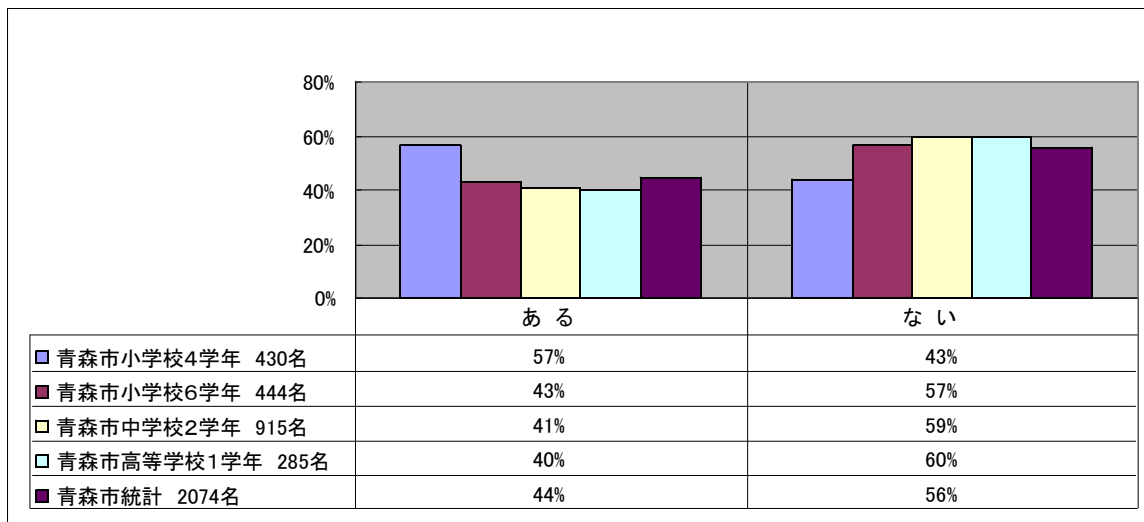


図 23

③ 質問21-1:ねぶた小屋見学の平均回数

	見学人数 (人)	見学平均 (回)
青森市小学校 4 学年 430 名	248	2.3
青森市小学校 6 学年 444 名	192	2.0
青森市中学校 2 学年 915 名	371	2.0
青森市高等学校 1 学年 285 名	115	2.2

表 3

(7) ねぶた祭りをもっと盛んにするための意見とアイデア

アンケート用紙に記述されていたものを、全て書き留めたが、ここでは、その一部約1/4ほどを紹介する。学校が偏らないように、全ての学校を取り上げ、その内の一、二のクラスのもの全てを取り上げた。「×3」というのは、そのクラスで同じ事を書いた子どもが3人いたということを表している。

●青森市小学校4学年

・花火を打ち上げながらねぶた祭りやる。(男)
・歌をうたいながら運行する。(男)
・カラスハネトをやめさせる。(男)(女)
・新しい踊りを考えればよい。(女)
・ねぶたをもっと大きくする。(男)
・いろいろなアピール、跳ね方をもっと激しくすればいい。(男)
・疲れても跳ねてほしい。(男)(女)
・電気をもっと明るくする。いろいろな飾りつける。もっと迫力があればいい。(男)(女)
・青森市全員が跳ねるようにポスターを貼る(男)
・ハネトの人数を増やす。(男)(女)
・ねぶたを制作した人が、ねぶたの上に上がる(男)
・ねぶたをゆっくり回す。(女)
・ハネトを楽しくさせる。(女)
・制作に携わった人の名前を書く。(女)
・ねぶたをいっぱい回す。(女)
・キャラクターねぶたを増やす。(女)
・ねぶたがしゃべると良い。(女)
・ねぶたを大きくする。(男)
・参加人数を増やす。(男)
・もっとサービスをする。(男)
・テレビにもっと出す。(男)(女)
・何かをばらまけばいい。(男)
・もっと声を出す。(男)(女)
・子どもたちに教える。(男)
・ハネトが跳ねていない時があるから、ハネトは全員跳ねてほしい。(男)(女)
・子供用のおもちゃを作る。(男)
・いまのままでいい。(男)
・囃子を多くする。(女)
・参加できる場所を多くする。(女)
・参加するには衣装代がかかるので、もっとくしてほしい。(女)
・おもしろく跳ねればいい(女)
・提灯を持つ先導が、楽しそうにやればいい。(女)
・出店を増やす。(女)
・声を出して、元気よく跳ねればいい。(男)
・迫力のあるねぶたにすればいい。(男)×2
・囃子とあう音楽を流せばいい。(男)
・キャラクターねぶたの制作。(男)
・出店を多くする。(男)
・運行時間を長くする。(男)
・ねぶたを回す回数を多くする。(男)×2
・参加人数をふやす。(男)
・広い通りで運行すればいい。(男)
・かけ声をもっと出せばいい。(男)
・花火を打ち上げると盛り上がる。(男)
・迫力のあるねぶたがいい。

(男)・ハネトの人数が多ければいい。(女)・ねぶたの台数を増やす。(女)×3
・ばけとの人数を増やす。(女)・ねぶたの台数を増やす。(男)×2
・うけを狙う。(男)・鉦を大げさにやる。(男)・ハネトの人数を少なくする。(男)・期間のうち、月、水、木、土に運行をする。(男)・刀などを新しい武器に変える。(男)・囃子の体験をさせる。(女)・参加人数を多くする。(女)・キャラクターのねぶたを制作する。(女)・浴衣のアレンジ。(女)
・歌を歌う。(男)・CMでの宣伝。(男)
・ねぶたの台数を増やす。(男)・団体ごとに、ねぶたの説明をする。(男)・ねぶたの大きさを大きくする。(女)・色、デザインで迫力を出す。(女)

●青森市小学校6学年

・笑えるようなおもしろい顔やデザインにする。(男)
・学校行事にもっとねぶた制作を取り入れる。(男)・ねぶた祭りの最後に、花火大会とは違う花火を打ち上げればいい。(男)
・ポスターをもっと張る。(男)
・外国にもっとねぶたを持って行く。(男)(女)
・呼びかけをする。(男)・運行コースを長くする。(男)
・ねぶたの台数を増やす。(男)
・ねぶた祭りの宣伝をCMなどでもっと宣伝すればいい。(女)×2
・ねぶたを大きくして、迫力をもっと出す。(女)×2
・見るだけでなく、たくさんの人が参加できればいい。(女)・いろんな所をねぶたが回れるように、運行コースを工夫する。(女)
・観光客がハネトで参加する。(女)
・他県にねぶた祭りを紹介する。(女)
・キャラクターねぶたを増やす。(男)×2
・囃子に迫力を。(男)・混んでいて、ねぶたが見えないときがあるので、もっと大きな通りで運行した方がいい。(男)
・もっと派手にねぶたを動かす。(男)×2
・紙はりをする。(男)
・ねぶた音頭を祭りの前に流す。(男)
・ねぶた制作をいろんな人に体験してもらう。(男)
・迫力や顔、デザインを工夫する。(男)
・ねぶた師の細かい作業はすばらしいものがあるので、学校でねぶたを制作できるようにすればいい。(男)
・ねぶた用品を安くする。
・ねぶたが見られる席を増やしてほしい。(男)
・ねぶたを大きくする。(男)(女)
・日本全国にもっと広める。(男)(女)×3
・観光客が集まる建物に、小さいねぶたを飾る。(女)
・参加を呼びかける。(女)
・ねぶたに電飾をつける。

(女) ・もっと迫力を出してほしい。(女) × 2 ・ねぶたの台数を増やす。(女) ・ばけとを増やす。(女) × 2 ・観光客のための席を多くする。(男) × 14 (女) × 16 ・市民が見られる席を増やす(男) × 3 ・歩道を広くする。(男) ・駐車場を多くする。(男) ・観光客が写真を撮れる時間をつくる。(男) ・チラシを配る。(女) × 3 ・CMをながす。(女) × 2 ・昨年度の賞を受賞したねぶた師がCMに出て、宣伝をする。(女) ・カラスハネトがはねる場所をつくる。(女) ・アナウンスでもっとわかりやすく解説をしてほしい。(女) ・デザインを工夫する。(女) ・ねぶたを大きくする。(男) × 3 (女) ・迫力のあるねぶたを増やす。(男) ・CMでもっと宣伝する。(男) × 2 ・外国にもねぶたを持って行く。(男) ・県知事をねぶたに乗せる。(男) ・早い時間からねぶたを運行する。(男) ・囃子の声を大きくする。(男) ・今の運行コース以外も回ればいい。(男) ・ねぶたの面の迫力をもっと出す。(男) ・ハネトの跳ね方をきちんとさせる。(女) ・期間中だけ、店の営業を長くすると便利。(女)

●青森市中学校2学年

・もっとアピールする。(男) ・ハネトが跳ねているところを全国放送で流すと、観光客が増え、盛んになる。(男) ・カラスハネトの取り締まり。(男) × 3 (女) ・観光客の見られる席を多くする。(男) ・賞が決まってからの運行期間を長くする。(男) ・海外からの観光客を増やす。(男) × 2 ・新しいスタイルのねぶた祭り。(男) ・マナーの強化。(女) ・全国に青森県やねぶたのすばらしさを伝える。(女) ・CM等を増やす。(女) ・日本、海外からのツアーを増やす。(女) ・私服でも参加できるようにすればいい。(女) ・その年に流行っているものをねぶたの題材とすればいい。(女) ・ハネトがほとんど盛り上がっていないので、一つの団体にハネトの責任者をおく。(女) × 2 ・ねぶた祭りの期間を延ばすと、遠い地方からきた方々がゆっくりと見る事が出来る。(女) ・迫力のあるねぶた。(女) ・声だしが必要。(女) ・ねぶたの台数を増やす。(女) ・市民の見る席を増やす。 ・キャラクターねぶたの制作。(女) ・跳ね方がうまい人は外側へ。(女) ・いつまでも見ていたいような祭りにするために、いろんな人が楽しめる祭りにすれば、盛んになると思う。(女) ・他県においてのCM宣伝。(男) ・今のままでよい。(男) × 2 (女) ・夜

遅い時間まで運行をする。(女) ・今より、もっと誰でも参加できるようにする。(女) ・運行コースを長くする。(女) × 2 ・席を増やす。(女) ・カラスハネトの追放。(女) × 2 ・屋台の数を増やす。(女) ・通路の確保。(女) ・市内全体を回ると、市民全員が参加することが出来る。(女) ・交通整備や鑑賞マナーに気を配る。(女) ・ねぶたの運行時間を長くする。(男) ・今まで以上に大規模に行う。(男) ・広い地域にねぶたの宣伝をする。(男) ・ねぶた祭りのツアーを増やす。(女) ・観光客が気軽に参加できるようにする。(女) ・カラスハネトの排除。(女) × 2 ・PRのチラシを作成し、全国、世界に配る。(女) ・ハネトの人数を増やす。(女) ・囃子の人数を増やす。(女) ・外国人用の説明、解説があってもいい。(女) ・芸能人、俳優を呼ぶ。(女) ・ねぶたのデザインの工夫。(女) ・今までとは少し違う行事をねぶた祭りと同時期に行い、盛り上げる。(女) ・迫力のある大型ねぶたを増やす。(男) ・今のままでいい。(男) ・伝統に縛られず、オリジナリティーのあるねぶたを制作する。(男) ・皆で協力する。(男) ・夏だけでなく、春も運行をする。(男) ・カラスハネトの排除。(男) ・新町、長島にこだわらず、市全体を運行する。(女) ・ハネト、囃子がもう少し、盛り上がりればいい。(女) ・ばけとを増やす。(女) ・宣伝をたくさんする。(女) ・新聞チラシに織り込んで宣伝する。(女) ・青森の人間が楽しいと思ってねぶたに参加しているかどうか。(女) ・県外でのねぶた運行。(女) ・ねぶたの回し方を工夫する。(女) ・観光客への対応をきちんとする。(女) ・売り子の服装の整備。(女) ・ハネトが跳ねていないので、見ている側はつまらない。(女) ・運行スタートは、一台ずつの運行の方が良い。(女) ・ねぶたを多く回す。(男) ・パフォーマンスを多くする。(男) ・歩道の整備。(男) ・警察は私服での巡回。(男) ・運行時間を長くする。(男) (女) ・花火を打ち上げながらのねぶた運行。(女) ・ねぶたが止まったときに観光客も跳ねる。(女) ・鈴を蒔く。(女) ・宿泊施設を作る。(女) ・ねぶた師の意気込みを伝える。(女) ・時間を長くする。(女) ・大人から子どもまで皆が参加出来るようにする。(女)

●青森市高等学校1学年

・有名人を呼ぶ。(男) ・ハネトの参加人数を増やす。(男) × 2 ・ハネトに積極的に参加する。

(男)(女) ・カラスハネトの排除。(男) ・ねぶたの台数を増やす。(男) ・運行コースを長くする。(男) ・たくさんの人が見やすいように、観客席を工夫した方がいい。(男) ・学校単位でのねぶた祭りの参加。(女) ・盛んに宣伝をする。(男) ・跳ね方を工夫する。(男) ・海外、県外にねぶたを宣伝した方がいい。(女) ・ハネトが盛り上がるように工夫する。(女) ・観光客の滞在時間が短いので、祭り中に帰るのは無くした方がいい。(女) ・もっとねぶたに迫力があればいい。(男) ・客席を多くする。(女) ・一般の人でもねぶたを制作できる場所を作る。(男) ・人混みが嫌いだから、ねぶた祭りには行かない。(男) ・ねぶた祭りを展望できるように、ビルの開発。(男) ・全国、海外に宣伝をする。(女) ・ツアーを組み、ねぶたについて深く知ることが出来る機会を作る。(女) × 2 ・周辺の店と協力するようにする。(女) ・ねぶたの台数を増やす。(男) ・カラスハネトの排除。(男) ・元気にハ

ネトは跳ねる。(女) ・みんなで参加。(男) ・ねぶたの大きさを大きくする。(男) ・カラスハネトの排除。(男) ・出店の値段を安くする。(男) ・学校ごとにねぶたを一台制作して、運行できればいい。(男) ・観覧の場所を増やす。(男) ・交通を便利にする。(男) ・たくさんの会社がねぶたを出す。(男) ・ハネトにもっと跳ねてもらおう。(女) ・歩道の整備をしてほしい。(女) ・商業的な背景を出さないでほしい。(男) ・正調囃子保存会の方々が、学校を回って、教えることによって、PTAの囃子のレベルがあがる。(男) ・花笠を広めるべき。(女) ・ハネトをオープンな感じにする。 ・賞などにこだわりすぎて、本来のねぶた祭りの意図が薄れてきている。(女) ・ホイッスルの使用を許可する。(男)(女) ・運行コースを従来のものにしてほしい。(男) ・海上運行の数を増やしてほしい。(女) ・ねぶたの期間を長くしてほしい。(女) ・祭りのマナーの徹底。(女)

(8)質問 23 : 地域(町内)ねぶた祭りをもっと盛んにするための意見とアイディア

●青森市小学校4 学年

・笛の人数を多くする。音が太鼓に消されてしまうから(男) ・市内全体にチラシを渡す(男) ・地域の人も、一緒に参加すればいい(女) ・花火を打ち上げる(女) ・6年生の踊りを3回くらいやる(女) ・キャラクターのねぶたを作ればいい(女) ・人をたくさん増やす。(男) × 2 (女) × 3 ・チラシを配る。(男) ・みんなに知ってもらい、楽しんでもらい、子どもの参加を多くする。(男) ・ねぶたの迫力をもっとだし、参加人数を増やす。(男)(女) ・電気をもっと明るくする。いろいろな飾りをつける。もっと迫力があればいい。(男)(女) ・鈴をなげる。(男) ・ハネトがもっと激しく踊ればいい。(男)(女) ・小学生の参加を多くする。(男)(女) ・練習を儲け、子どもを増やす。(男) ・ねぶたを大きくする。(男)(女) × 2 ・キャラクターねぶたを増やす。(女) × 2 ・青森市内すべての地域でねぶた祭りをする。(男) ・元気よく運行する。(男) ・太鼓と鉦の人は、「ラッセラー」と声をかける。(女) ・ハネトが盛り上がればいい。(男) ・今のままでいい。(男) × 2 (女) ・迫力があればいい。(男) ・ねぶたの台数を増やす。(男) ・チラシ、ポスターを貼る。(男) ・花火を打ち上げると盛り上がる。

(男) ・かけ声を出す。(男)(女) ・囃子の人数を増やす。(女) ・運行コースを長くする。(男)(女) ・他の地域から人を呼ぶ。(男) ・ねぶたを回す回数を多くする。(男)

●青森市小学校6 学年

・笑えるようなおもしろい顔やデザインにする。(男) ・地域ねぶたを行っている学校同士が、合同運行出来ればいい。(男) ・ばけともいれればいい。(男) ・ポスターをもっと張る。(男) ・他の学校でもねぶたの制作、運行をする。(男) ・見物者も参加すればいい。(男) ・子どもから大人まで、みんなで囃子が出来ればいい。(男) ・参加する人を募集する。(男) × 2 (女) × 2 ・ハネトの人数を増やす。(男) ・ねぶたの囃子を新しく作る。(男) ・迫力のあるねぶたにする。(男) × 2 (女) ・ねぶたを大きくする。(男) × 3 ・ねぶたの台数を増やす。(男) × 2 ・キャラクターのねぶたを制作する。(男)(女) ・太鼓のリズムを揃える。(男) ・チラシを配る。(男)(女) ・町内ごとに特徴付けたねぶたにする。(女) ・学校でねぶたのことを学び、いろんな人が参加すればいい。(女) ・〇〇地域は回るコースが短いので、長くすればいい。(女) × 2 ・もっと明るくする。(女) ・人数を増やし、皆に

自慢をする。(女) ・今のままでいい。(男) × 2
(女) × 2 ・かけ声をかける人がもっといればいい。
(男) ・小型ねぶたをもっと作る。(男) ・一年
に 2 回やる。(男) ・あまり行く機会がないので、
わからない。(男) ・地域内でチラシを配る。(女)
・ねぶたを大きくする。(女) × 3 ・誰でも参加
できるようにすればいい。(女) ・虫が集まらない
ようにする。(女) ・学校全体(全員参加)での行
事にすればいい。(女)

●青森市中学校 2 学年

・屋台が出ればいい。(男) ・ポスターでの呼び
掛け。(男) ・参加人数を増やす。(男) × 2 (女)
× 2 ・迫力が合ってもいい。(男) ・回覧板など
で参加者を増やす。(男)(女) ・チラシの作成。(女)
・小さな金魚ねぶたの制作イベントの開催。(女)
・子どもから大人までのみんなで楽しめる企画をす
ればいい。(女) ・地域ねぶたがわからない。(女)
・町内全員の参加。(女) ・町内ごとのテレビCM
の作成。(女) ・町内ねぶたは止めた方がいい。
(女) ・いくつかの町内会と一緒に集まり、祭りを
開催する。(女) ・参加人数を増やす。(女) × 2
・盛り上げ役を作る。(女) ・囃子の人数を増やす。
(女) ・今のままでいい。(男) ・ねぶたの台数
を増やす。(男) ・豪勢に行う。(男) ・小さい子
どもでも、参加できるようにする。(男) ・ねぶた
をしっかりと制作する。(女) ・中学校ごとにねぶた
を出す。(女) ・囃子をもっとたくさんの人にやっ
てもらおう。(女) ・他の町内からも人を集める。
(男) ・チラシを配る。(男) ・参加を呼び掛け
る。(男) × 2 ・台数を増やす。(男)(女) ・P
Rする。(男) ・地域の良いところをアピール。
(男) ・子どもねぶたが合同運行に大型ねぶたと一
緒に最終日まで運行できればいい。(男) ・かき氷
を安くすればいい。(男) ・囃子の人数を増やす。

(女) ・ねぶたを目立たせる。(女) ・チラシを
配る。(女) ・他県に広める。(女) ・宣伝をする。
(男) ・町内の人に知ってもらおう。 ・初心者を交
えて、多人数でねぶたに参加する。(女) ・チラシを配
る。(女) ・もっともっと盛り上げる。(男) ・い
ろいろな種類のねぶたを制作する。(男)

●青森市高等学校 1 学年

・参加人数を増やし、大規模に祭りを行う。(男)
・町内ねぶたの復活。(女) ・気軽に参加できる
囃子教室があればいい。(女) ・参加している人が楽
しそうに参加をする。(女) ・構図、デザインはね
ぶた師が制作し、その後は生徒同士で制作を試みる。
(女) ・学校で、ねぶたのことを子どもたちに教え
た方がいい。(女) ・ポスターなどでの呼び掛け。
(女) ・学校行事でねぶた制作を取り入れて、活動
を活発にする。(男) ・地域の小学生、中学生にね
ぶたを制作させる。(男) ・ねぶた運行期間中は、
休日にする。(男) ・地域ねぶたを集めて、賞を決
める。(男) ・ねぶたの台数を増やす。(女) ・ね
ぶたの大きさを大きくする。(女) ・地域ねぶたの
運行マップを作成し、いつどの町会が運行するのかの
詳細も作成する。(女) ・ねぶたの完成度をあげる。
(女) ・パンフレットの作成。(男) ・参加者の
人数を増やす。(男) × 2 ・声を出す。(女) ・み
んなで参加。(男) × 2 ・町内会にねぶたがないの
で、あればいい。(男) ・カラスハネトの排除。
(男) ・出店の値段を安くする。(男) ・宣伝を
する。(男)(女) × 3 ・新聞などにスジュールを掲
載する。(男) ・少子化だからといって、やめない
でほしい。(女) ・ねぶた限定メニューなど、手頃
な値段で食べ物を提供する。(女) ・学校単位での
ねぶた制作を強制する。(男) ・地域でもっと盛ん
にねぶた祭りを行う。(男) ・町会ごとにねぶたを
制作する。(女)

第二章 弘前市小学校4、6学年・中学校2学年 ・高等学校1学年の調査結果

1. 全ての子ども集計結果

表 2 意識調査アンケート項目 1831名		意識段階 %				
		①	②	③	④	⑤
(1) ねぶた祭りの運行について						
1	ねぶた祭り・町内ねぶたの、太鼓、笛、鉦などの囃子が素晴らしいと思う。	44	35	14	4	3
2	ねぶた祭り・町内ねぶたの引き手が素晴らしいと思う。	28	36	26	6	5
3	ねぶた祭り・町内ねぶたの、ねぶた本体・前ねぶたなどが素晴らしいと思う。	50	28	15	3	3
4	私は、学校の授業や行事においてねぶた祭りを取り入れた方がいいと思う。	36	23	21	9	11
(2) ねぶた制作について						
5	ねぶたや前ねぶたの制作をお手伝いすることが、素晴らしく楽しいことと思う。	29	27	31	7	7
6	金魚ねぶたや灯ろうねぶたを制作することが、素晴らしく楽しいことと思う。	32	29	26	8	6
7	ねぶたを制作する素晴らしさ楽しさは、骨組みを組み立てることにあると思う	22	27	36	9	7
8	ねぶたを制作する素晴らしさ、楽しさは、デザインと色づかいにあると思う。	44	30	20	3	4
9	学校の授業や行事において、ねぶた制作を取り入れた方がいいと思う。	37	20	23	9	11
(3) ねぶた祭りと社会について						
10	弘前ねぶたが、世界に誇れる祭りと思う。	44	29	18	4	5
11	弘前ねぶたが、日本有数の祭りと思う。	49	27	16	4	4
12	弘前ねぶたが、弘前市の発展にとって重要な祭りと思う。	51	26	16	4	3
13	古くから伝わるお祭りを大切にすることが必要だと思う。	61	25	10	2	2
14	古くから伝わるお祭りを、自分の子どもたちに伝えていく必要があると思う。	48	31	16	2	3
15	ねぶた制作や祭りでいろいろな人と交流ができることは素晴らしいと思う。	41	29	21	5	4
16	将来ねぶた絵師になれるならば、なってみたいと思う。	9	9	19	16	47

*段階 ①強くそう思う ②どちらかといえばそう思う ①+②で、肯定的と評価
③わからない ④どちらかといえばそう思わない ⑤そう思わない

(4) ねぶた祭りに対する思い(意見)について

17. 合同運行の運行コースについて

現在のような2つのコースでよい		前のような土手町通り1本がよい		その他	
人	%	人	%	人	%
1389	77	314	17	105	6

18. 合同運行の運行時間（19:10 から運行が終わるまで）について

現在のままでよい		短くした方がよい		その他	
人	%	人	%	人	%
1425	79	226	13	154	9

19. あなたがねぶた祭りの審査委員であったとすれば、ねぶた祭りの何に注目して評価しますか

A.主にねぶた本体		B.主に団体全体の運行形態		C.ねぶた本体と団体全体の運行形態		D.その他	
人	%	人	%	人	%	人	%
431	24	204	11	1116	61	69	4

19-1.19 の質問で A または C と答えた方。ねぶた本体の何を主に評価しますか。

面（顔）		構図などのバランス		迫力		デザイン・色づかい		送り絵		その他	
人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
494	13	675	18	1232	32	1092	29	321	8	12	1

3 つ以内
(複数回答)

19-2.19 の質問で B または C と答えた方。ねぶた祭り運行形態の何を主に評価しますか。

かけ声		ねぶたの大きさ		囃子		ねぶたの回し方		その他	
人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
1029	34	464	15	913	30	518	20	39	1

3 つ以内（複数回答）

20. 合同運行のスタートについて

現在のようなスタート地点からの、一台ずつの運行がよい		コース全体にねぶたを配置した、一斉運行がよい		その他	
人	%	人	%	人	%
1405	78	346	19	49	3

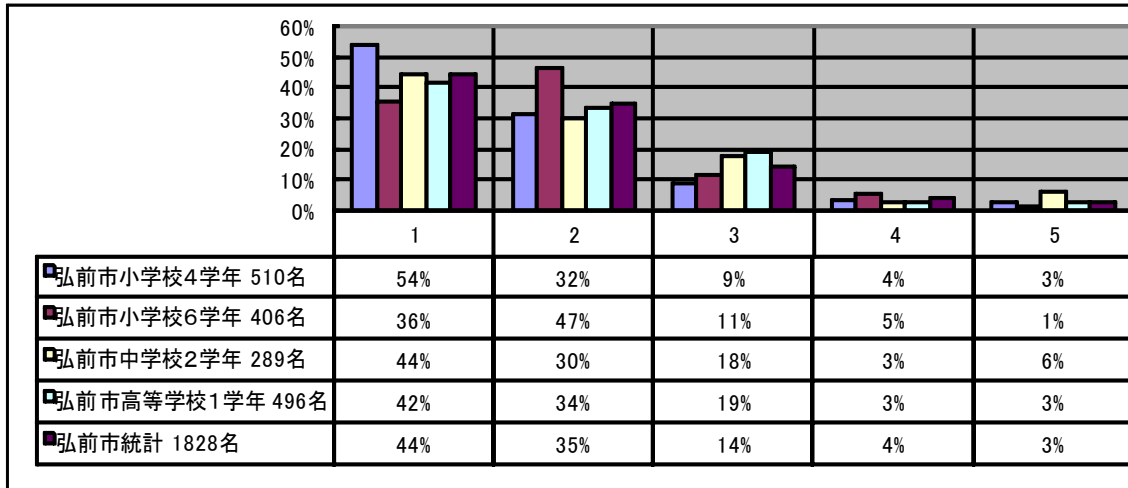
21. ねぶたを制作しているラッセランドに行って、制作風景を見た事がありますか。

ある			ない	
人	%	平均回数	人	%
640	35	3.7	1169	65

2. 学年別集計結果

(1) ねぶた祭り・運行についての意識

① 質問1:ねぶた合同運行・町内ねぶたの太鼓・笛・鉦などの「囃子」が素晴らしいと思う



*段階 1－強くそう思う 2－どちらかといえばそう思う 3－わからない 4－どちらかといえばそう思わない 5－そう思わない

図 24

② 質問2:ねぶた合同運行・町内ねぶたの引き手が素晴らしいと思う

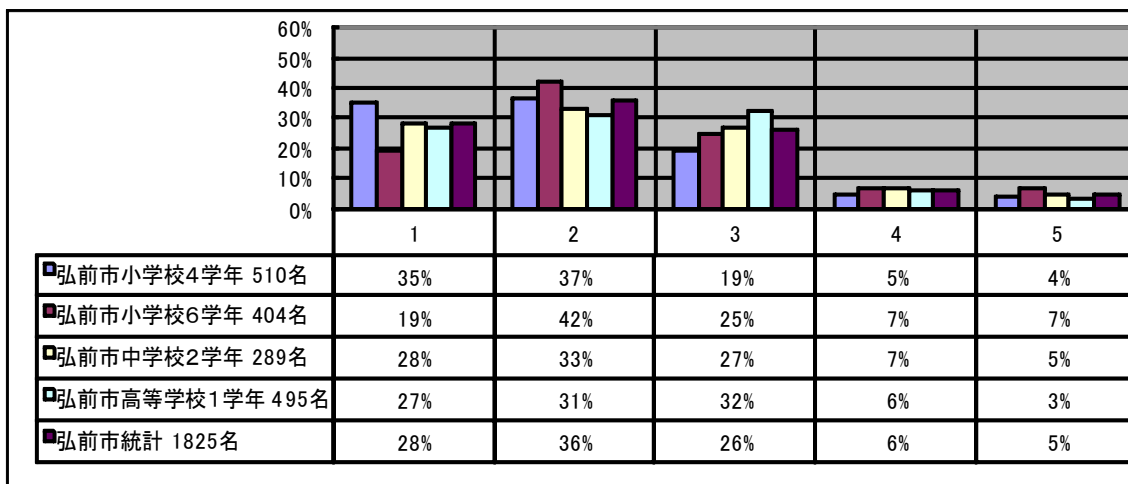


図 25

③ 質問3:ねふた合同運行・町内ねふたの、ねふた本体・前ねふたなどが素晴らしいと思う

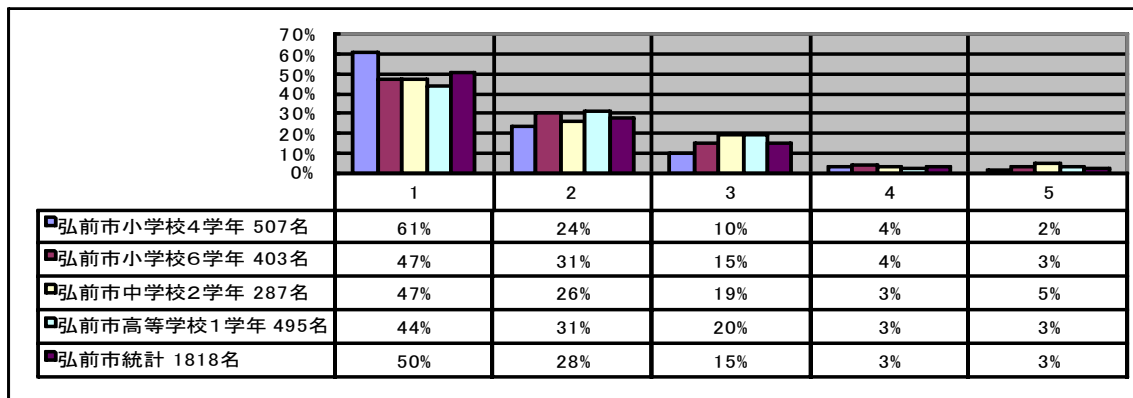


図 26

(2) ねふた制作についての意識

① 質問5:ねふたや前ねふたの制作のお手伝いすることが素晴らしく、楽しいことと思う

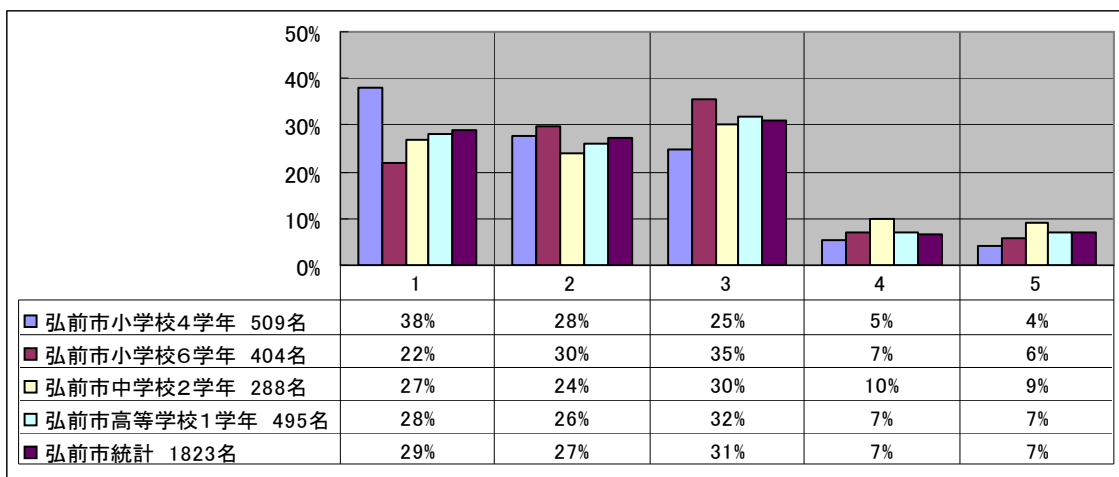


図 27

② 質問6:金魚ねふたや灯籠ねふたを制作することが素晴らしく、楽しいと思う

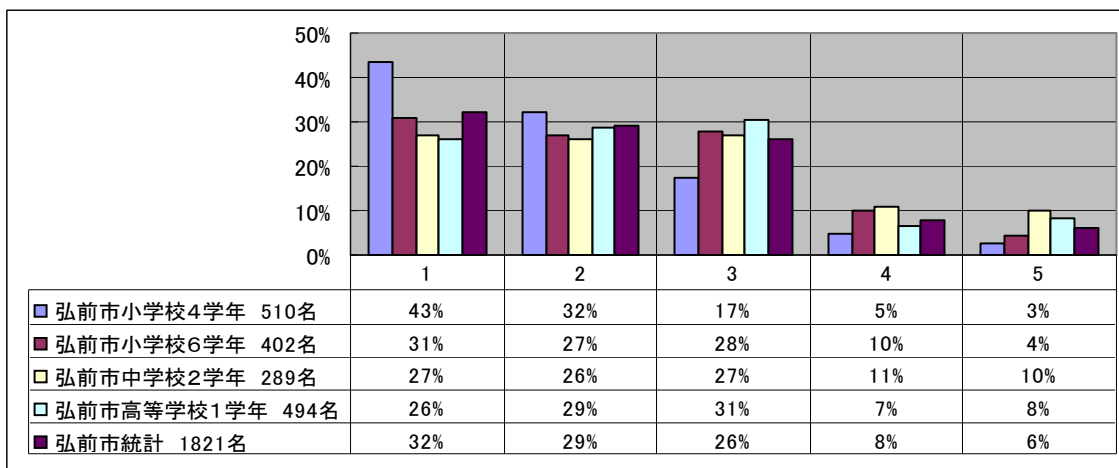


図 28

③ 質問7:ねふたを制作する素晴らしさ、楽しさは、骨組みを作り組み立てることと思う

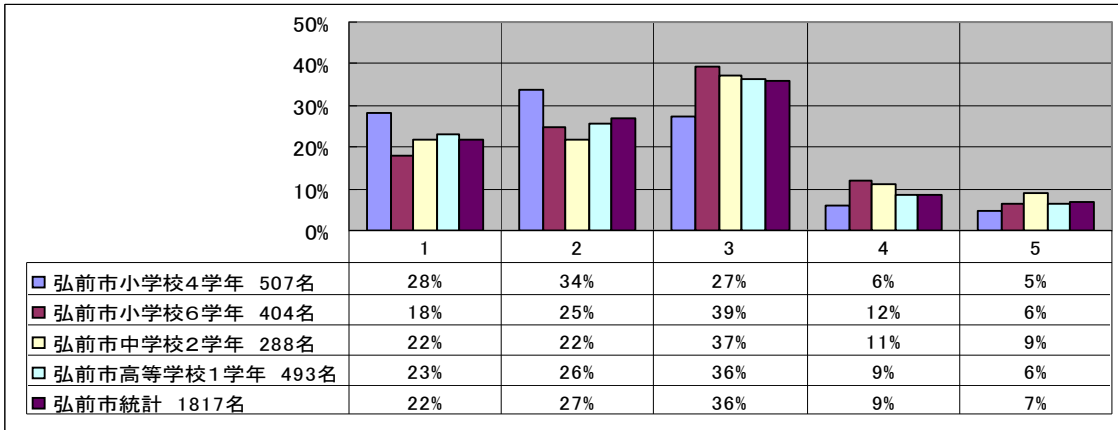


図 29

④ 質問8:ねふたを制作する素晴らしさ、楽しさは、デザインと色づかいにあると思う

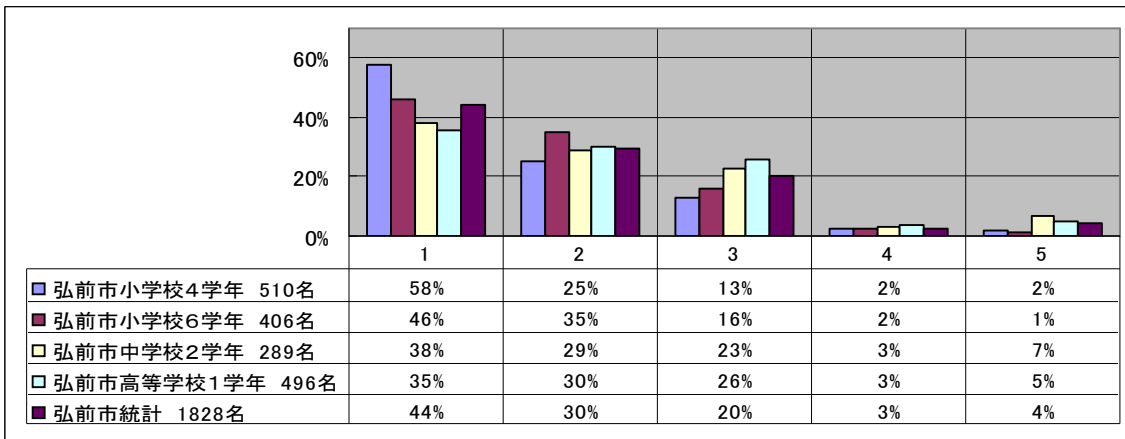


図 30

(3) ねふた制作・運行を学校の授業で取り入れることについての意識

① 質問4:学校授業や行事において、ねふた祭りを取り入れた方がよいと思う

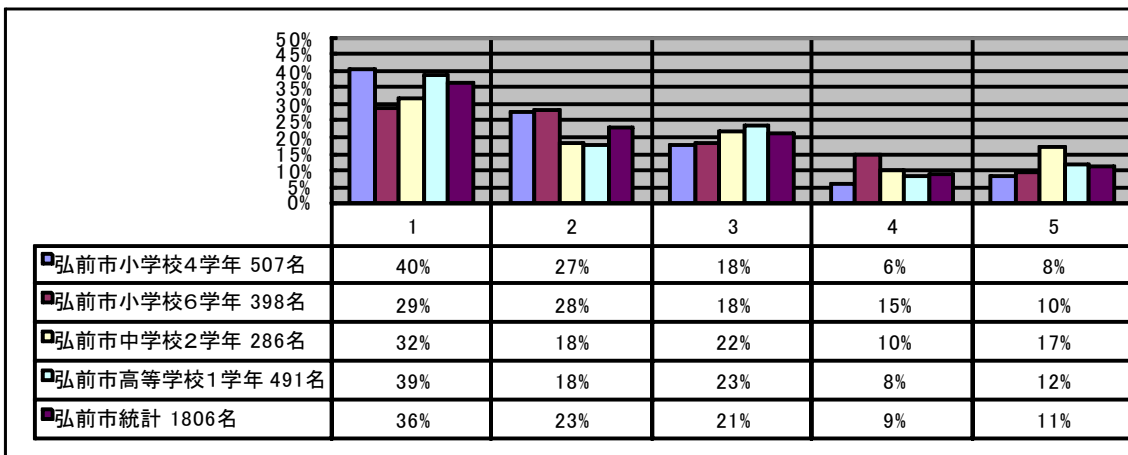


図 31

② 質問9:学校の授業や行事において、ねぶた制作を取り入れる方がよいと思う

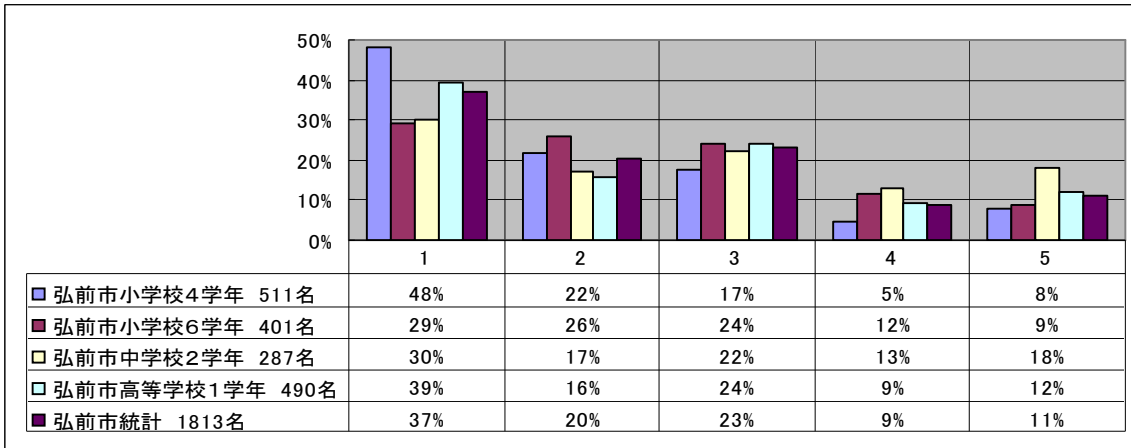


図 32

(4) ねぶた祭りと社会についての意識

① 質問10: 弘前ねぶたは、世界に誇れる祭りと思う

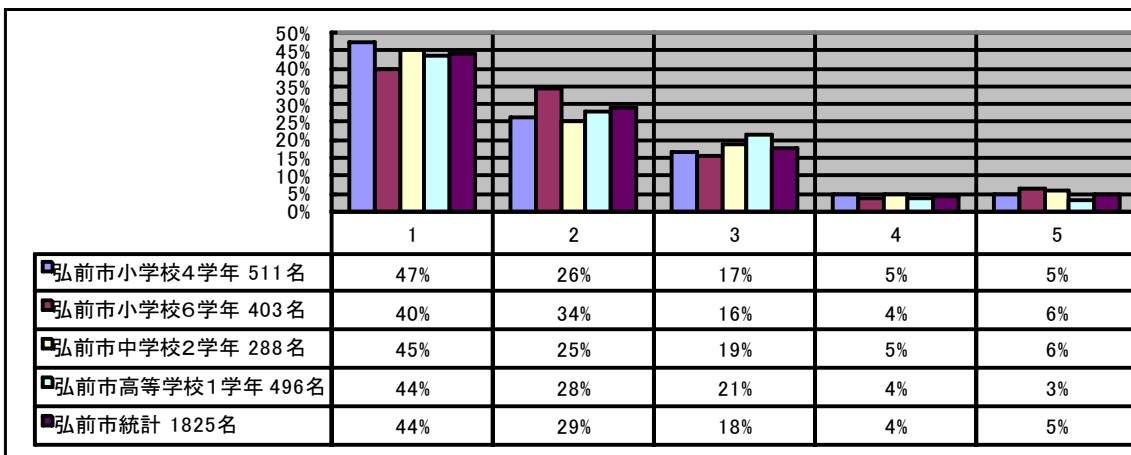


図 33

② 質問11: 弘前ねぶたは、日本有数の祭りと思う

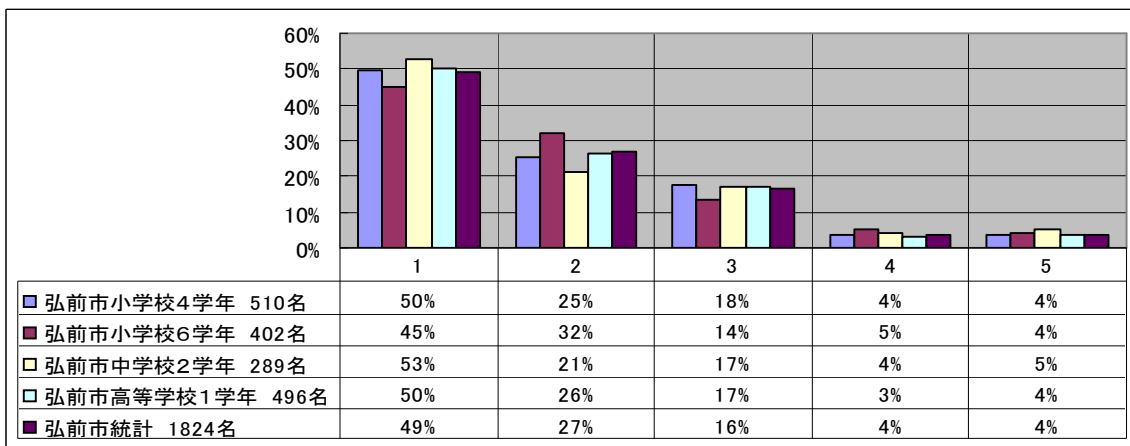


図 34

③ 質問12: 弘前ねぶたは、弘前市の発展にとって重要な祭りと思う

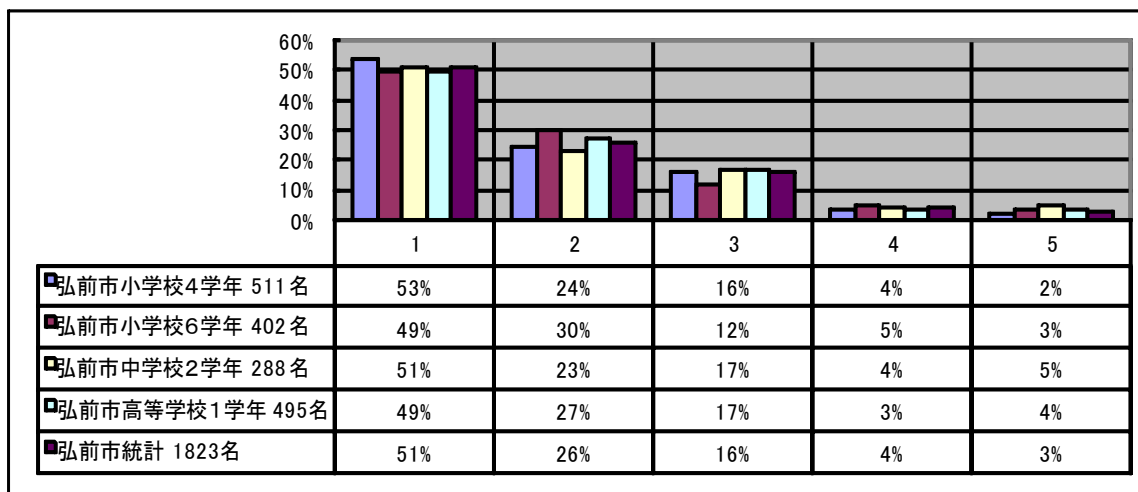


図 35

④ 質問13: 古くから伝わるお祭りを大切にすることが必要だと思う

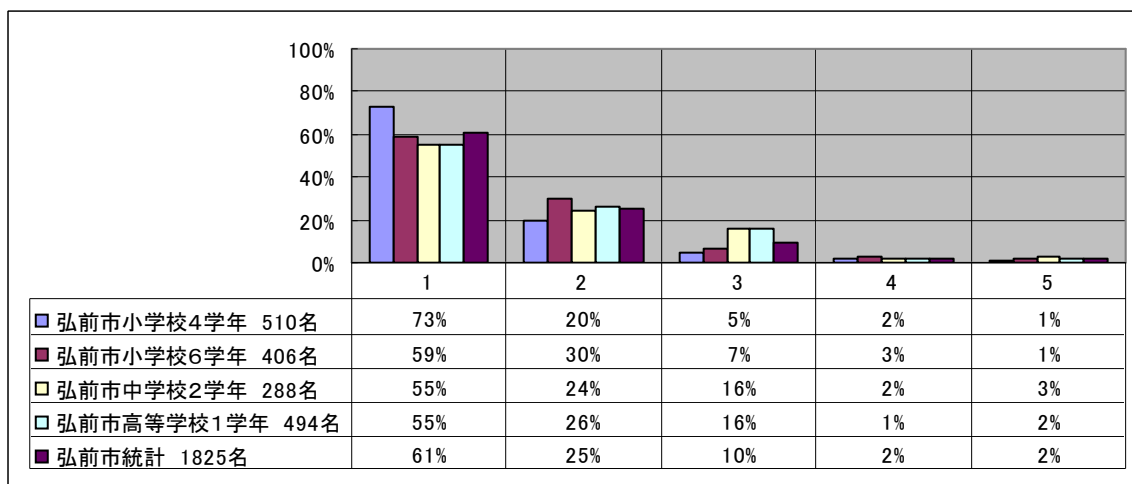


図 36

⑤ 質問14: 古くから伝わるお祭りを、自分の子どもたちに伝えていく必要があると思う

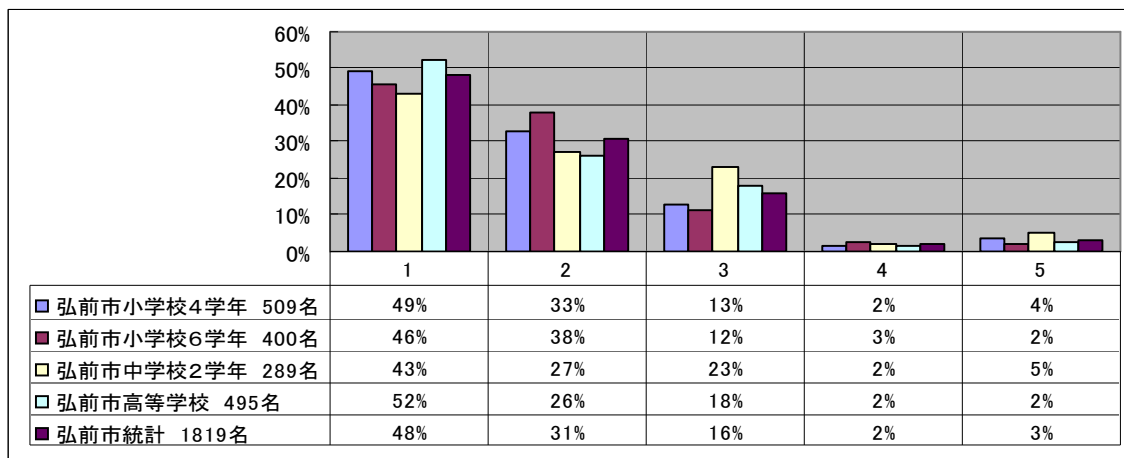


図 37

⑥ 質問15:ねぶた制作や祭りで、いろいろの人と交流できることは素晴らしいことと思う

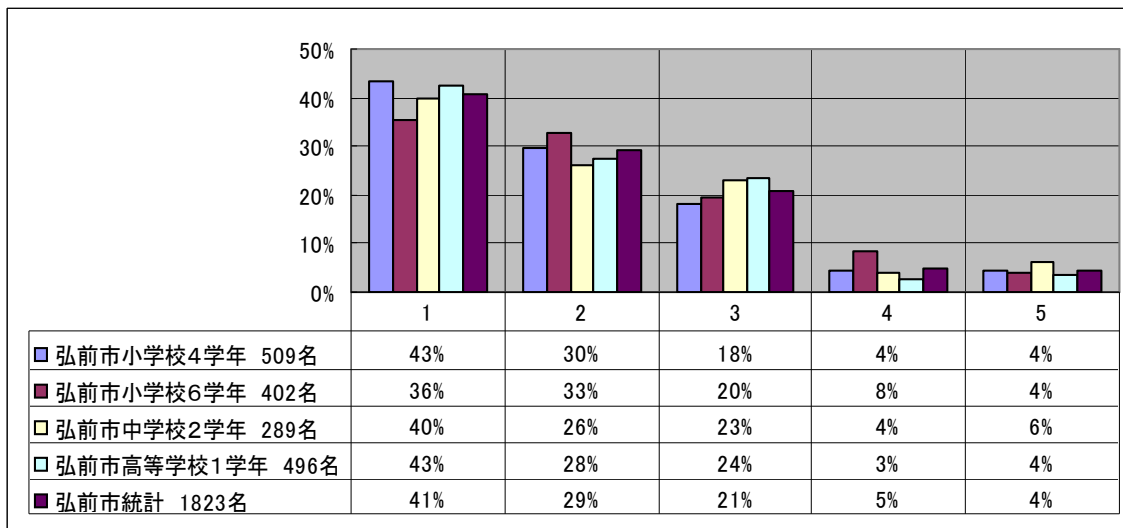
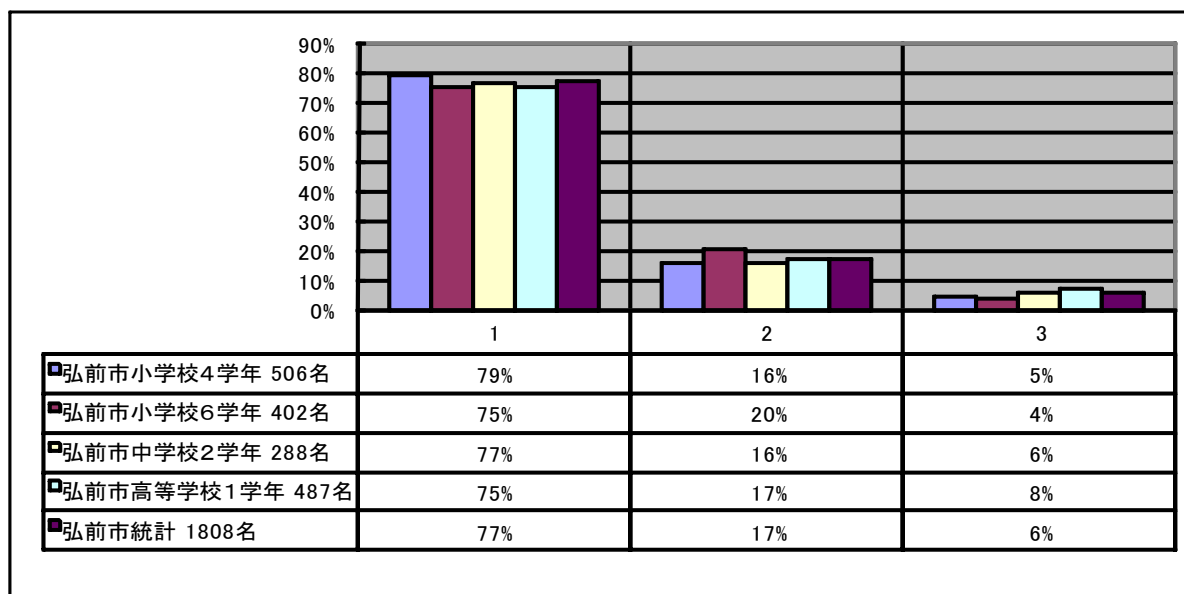


図 38

(5) ねぶた祭りの運行・評価についての意見

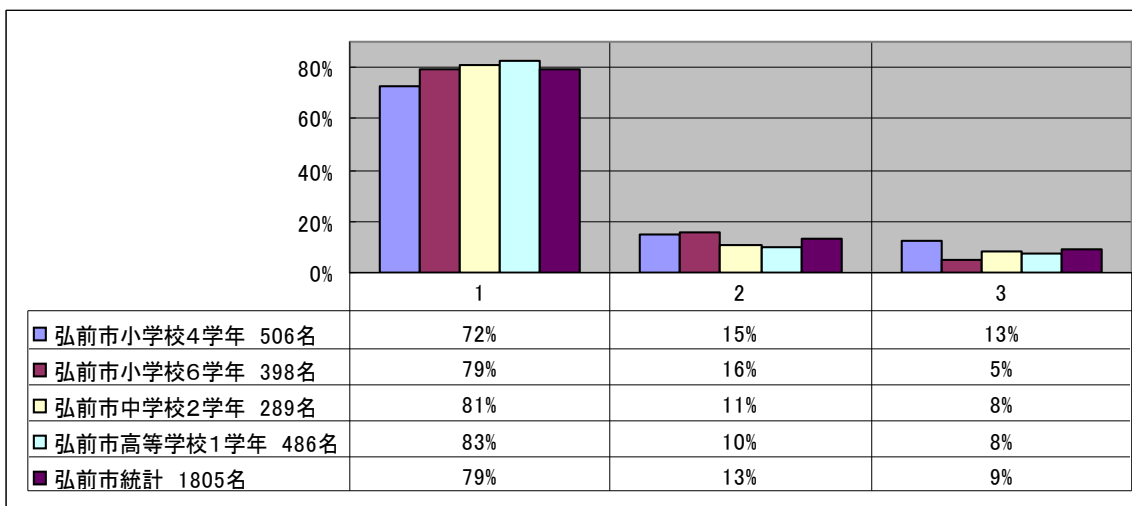
① 質問17: 合同運行のコースについての意見。



1. 現在のような2コースがよい 2. 前のような土手町通り1コースがよい 3. その他

図 39

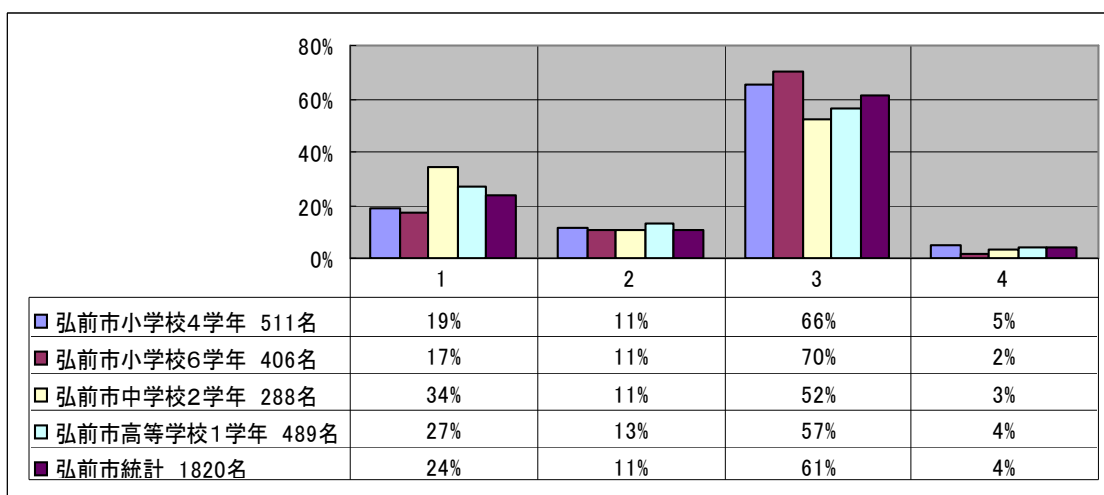
② 質問18: 合同運行の運行時間(19:00から運行が終わるまで)についての意見



1. 現在のままでよい 2. 短くした方がよい 3. その他

図 40

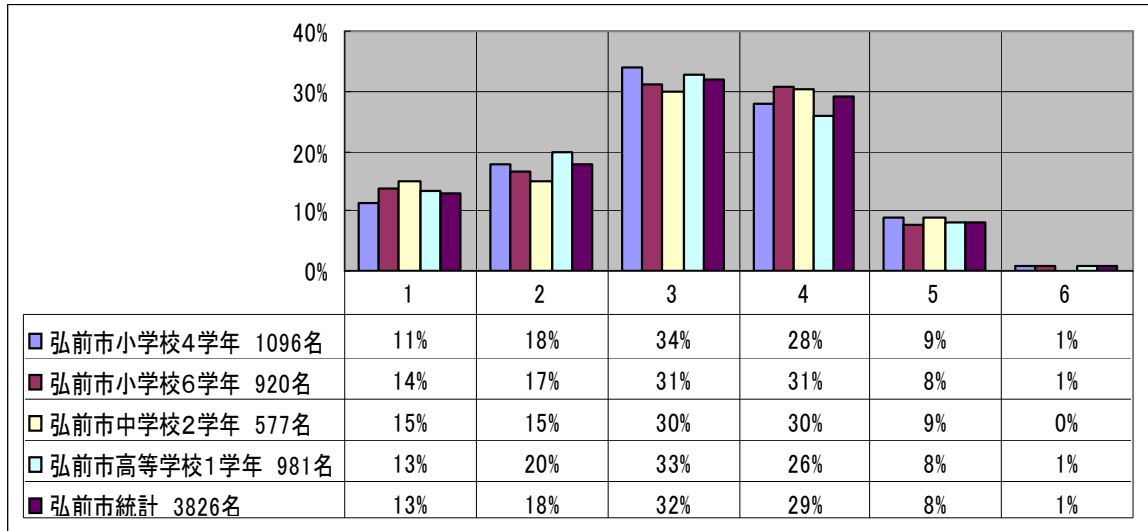
③ 質問19: ねぶた祭りの審査委員であったとすれば、ねぶたの何に注目して評価するのか



1. 主にねぶた本体 2. 主に団体全体の運行形態
3. ねぶた本体と団体の全体の運行形態 4. その他

図 41

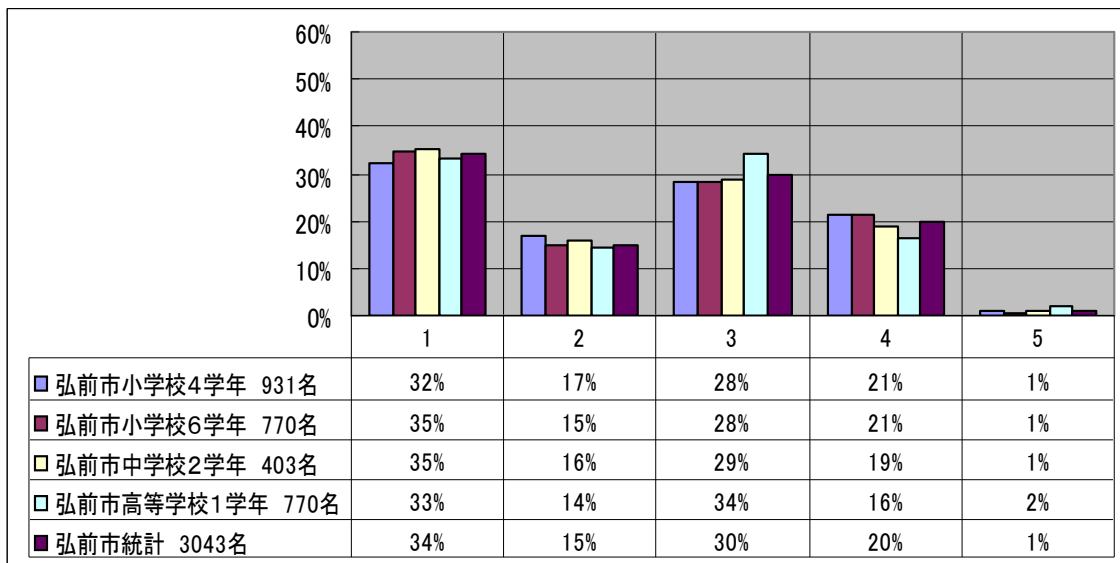
④ 質問19-1: ねぶた本体の何を主に評価するのか(3つ以内の複数回答)



1. 面(顔) 2. 構図などのバランス 3. 迫力 4. デザイン・色づかい 5. 送り絵 6. その他

図 42

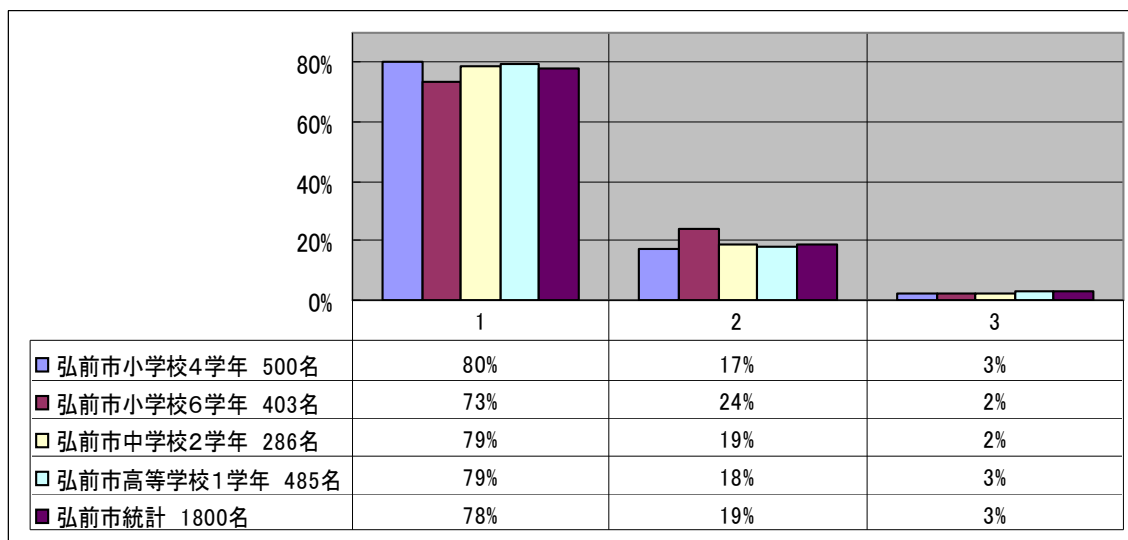
⑤ 質問19-2: ねぶた祭りの運行形態の何を主に評価しますか(3つ以内の複数回答)



1. かけ声 2. ねぶたの大きさ 3. 囃子 4. ねぶたの回し方 5. その他

図 43

⑥ 質問20: 合同運行のスタートについて

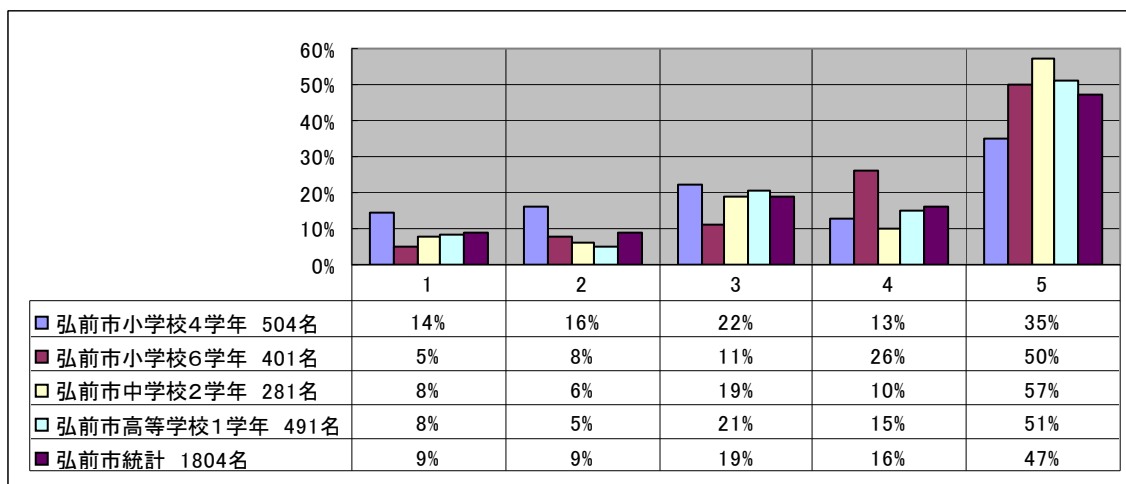


1. 現在のようなスタート地点からの一台ずつの運行がよい
 2. コース全体にねぶたを配置した一斉運行がよい 3. その他

図 44

(6) ねぶた制作・ねぶた絵師への意識

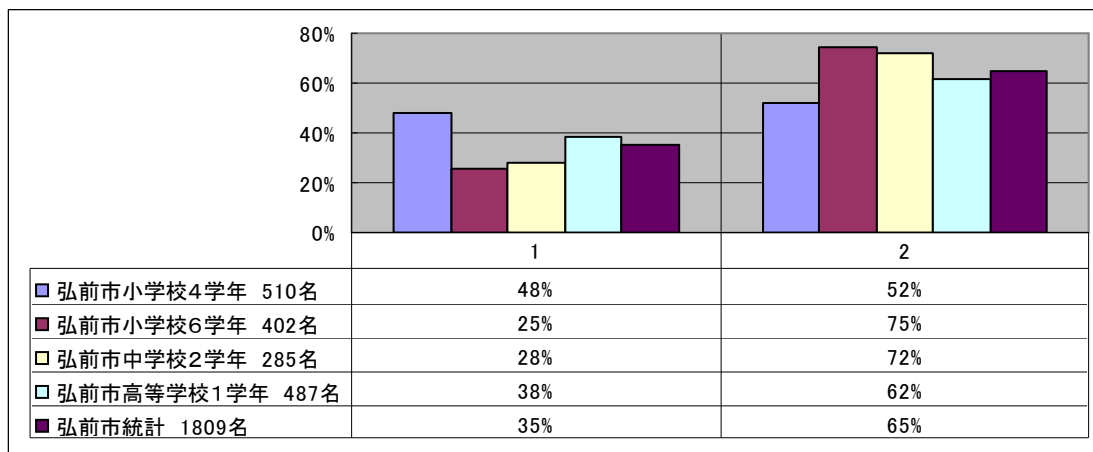
① 質問16: 将来ねぶた絵師になれるならば、なってみたいと思う



- *段階 1 - 強くそう思う 2 - どちらかといえばそう思う 1 + 2 で、肯定的と評価
 3 - わからない 4 - どちらかといえばそう思わない 5 - そう思わない

図 45

② 質問21: ねぶたを制作している小屋に行って、制作風景を見たことがありますか



1. ある 2. ない

図 46

③ 質問21-1: ねぶた小屋見学の平均回数

表 4

	見学人数 (人)	見学平均 (回)
弘前市小学校 4 学年 510 名	243	4.4
弘前市小学校 6 学年 402 名	102	3.2
弘前市中学校 2 学年 416 名	81	3.0
弘前市高等学校 1 学年 487 名	186	3.0

(7) 合同運行ねぶた祭りをもっと盛んにするための意見とアイデア

アンケート用紙に記述されていたものを、全て書き留めたが、ここでは、その一部約1/4ほどを紹介する。学校が偏らないように、全ての学校を取り上げ、その内の一、二のクラスのもの全てを取り上げた。「×3」というのは、そのクラスで同じ事を書いた子どもが3人いたということを表している。

●弘前市小学校4学年

・かけ声を大きくする。(男)(女) ・かけ声の回数を増やす。(男)×2 ・ボランティアの人数を増やす。(女) ・制作現場をみんなに見せる。(女) ・ねぶたを引っ張る人の人数を増やす。(男) ・今のままでいい。(男) ・ねぶたの台数を増やす。(女) ・合同運行に力を入れる。(男) ・ねぶたの台数を増やす。(男) ・ポスターの数を増やす。(女) ・学校行事でねぶたを出す。(女) ・ねぶたについて詳しく教える。(女) ・宣伝をする。(男) ・太鼓を強く叩く。(男)(女) ・青森ねぶたみたいに、踊りをつける。(男)(女) ・かけ声を変える。(男) ・回し方を変える。(男) ・パフォーマンスを取り入れる。(男) ・人形ねぶたを増やす。(男) ・青森県の有名人を呼ぶ。(男)(女) ・かけ声を大きくする。(女) ・りんご娘が歌を歌う。(女) ・笛を吹きながら踊る。(女) ・CM等で宣伝をする。(男) ・プレゼント、景品を作る。(男) ・参加人数を多くする。(男)×8(女)×3 ・ねぶたの台数を増やす。(男)×2 ・囃子の人数を増やす。(男)×2(女) ・お客さんに太鼓を叩かせる。(男) ・キャラクターねぶたはほらない。(男) ・子どもが笛をやる。(男) ・かけ声を大きくする。(男)(女)×2 ・子どもが書いたねぶたを出す。(男) ・迫力のあるねぶたにする。(男)(女)×2 ・子どもの参加人数を増やす。(男)×3(女)×4 ・ねぶたの通るコースの店の電気を消す。(男) ・子どもに興味を持たせる。(女) ・子どもに景品をあげる。(女)×2 ・人がたくさん集まる所で、参加人数を増やす。(女) ・太鼓を強く叩く。(女) ・金魚ねぶたをあげる。(女) ・新しいかけ声を作る。(女) ・飴、鈴を子どもにあげる。(女) ・祭り期間を増やす。(女) ・違う楽器を使って囃子をやる。(女) ・かけ声を大きくする。(男)(女)×2 ・多くの人に伝えていく。(男) ・弘前市民全員の参加を呼び掛ける。(男)×2 ・ジグザグに運行をす

る。(男) ・もっと楽しくする。(女) ・ポスターでの宣伝。(女) ・チラシを配る。(女) ・最終日に全部のねぶたが一斉にスタートすればいい。(女) ・小さい子どもが飽きないようにすればいい。(男)(女) ・大声を出す。(男)(女) ・迫力をもっと出す。(男) ・ねぶたを止めて、迫力と感動を与えられればいい。(女) ・キャラクターねぶたも運行させればいい。(女) ・ねぶたの団扇を配る。(男) ・ねぶたを展示して、無料で見られる建物をつくる。(男) ・ねぶたを見る人を増やす。(男) ・小さい子どもが興味を持てるようにすればいい。(男) ・囃子を派手におこなう。(男)

●弘前市小学校6学年

・ねぶたの大きさを大きくする。(男) ・スタート地点をバラバラにする。(男) ・ねぶたの回し方を工夫する。(男) ・市民の参加を増やす。(男) ・前ねぶたにも賞を与える。(男) ・呼びかけをする。(男)(女)×4 ・他県への宣伝。(男) ・地域のねぶたを増やす。(男) ・次の時代に合同運行を伝えていく。(男) ・コースを増やす。(男) ・見る人を増やす。(男) ・途中で止まらないで、次々と運行をさせる。(女) ・運行時間を長くする。(女) ・見ている人も参加できればいい。(女) ・パフォーマンスをする。(女) ・音楽を流す。(女) ・かけ声を大きくする。(女) ・ねぶた本体の迫力をもっと出す。(男)×2 ・日本全国にアピールする。(男)×2 ・ねぶたを大きくする。(男) ・チラシを配る。(男)×4(女) ・ねぶたの台数を増やす。(男) ・ポイ捨ての禁止。(男) ・おもしろいイベントをやる。(男) ・観客が感動するようなねぶたにする。(男) ・携帯電話やパソコンでねぶたのことを配信する。(女) ・引っ張る人が盛り上がればいい。(女) ・ねぶたを見ている人に、ねぶたグッズを配る。(女) ・ポスターを貼る。(女) ・ねぶたの高さを低くして、電線人引かからないようにする。(男) ・全国に雑誌を出す。(男) ・おもしろい絵や、子どもの目にとまるような仕掛けをねぶたにつける。(男) ・サービスを多くする。(女) ・全県にアピールする。(男) ・かけ声を大きくする。(女) ・囃子をもっと上手になればいい。(女) ・囃子をアレンジしてもいいと思う。(女) ・運行しているねぶたがどこの団体なの

かを説明してくれればいい。(男) ・もっと宣伝をすればいい。(男) ・ねぶた祭りを全国に広め、多くの人に参加してもらおう。(男) ・ねぶたの素晴らしさを講演会などで伝える。(男) ・かけ声を大きくする。(男)(女) × 4 ・ねぶたの台数を増やす。(男) ・ねぶたの運行コースは今のままでいい。(男) ・運行時間を早めた方がいい。(男) ・立ちねぶたを弘前でもやる。(女) ・送り絵にもっと力を入れるべき。(女) ・ねぶた祭りを誘導する人数を増やした方が、事故や怪我がなくなる。(女) ・観光客がもっと見にくればいい。(女) ・学校でねぶたの事を教えてほしい。(女)

●弘前市中学校 2 学年

・ねぶたの大きさを小さくし、たくさんのねぶたを出す。(男) ・ねぶたの台数を多くし、運行期間を長くし、午前の運行を毎日行う。(男) ・学校で、ねぶたについての講演をし、町の人皆にねぶたの素晴らしさを伝える。(男) ・待機時間を無くすために、コースにねぶたを配置し、一定の早さでコースを運行する。(男) ・団体ごとの間隔を広くする。(男) ・見ている人も途中参加出来るようにすればいい。(男) ・ねぶたの笛を吹く人がきちんとした格好で参加すればいい。(女) ・運行コースを長くする。(女) ・がんばること。(男) ・宣伝でのアピール。(男) ・出店を多くする。(男) × 2 ・ねぶたの運行方法や、伝統的なものを一度整理し、新しい方法を考え直してもいいのはいいか。(男) ・キャラクターねぶたを取り入れる。(女) ・迫力のあるねぶたを増やしてほしい。(女) ・見ている人も何かしらのかたちで参加できればいい。(女) ・若い人が集まれば未来につながるので、活気付くと思う。(女) ・テレビやチラシで呼びかけをし、ねぶたの楽しさをアピールする。(女) ・花火をあげながら、運行すれば迫力が増えると思う。(女) ・外国人を増やし、海外にも広める。(女) ・ねぶたを大きくする。(男) ・キャラクターのねぶたを制作すればいい。(男) ・ねぶたのグッズを増やす。(男) ・「ヤーヤドー」の掛け声はいやだ。(男) ・観光客が参加できるように、祭りに関わっている人が誘うようにすればいい。(男) ・自衛隊の武器は剣より、鎗のほうがいい。(男) ・青森ねぶた祭りみたいに明るくする。(女) ・学校で強制参加にする。(男) ・老若男女、全員参加する。(男) ・みんなが驚くようなねぶたにする。

(男) ・もっと楽しい祭りにする。(男) ・もっと声を出す。(男) ・盛り上げる。(男) ・ねぶたの良さをわかってもらうために、頑張る。(女) ・たくさんの人を巻き込んで、ねぶた祭りをを行う。(女) ・日本各地にねぶた祭りがはじまる日にちをポスターで紹介する。(女)

●弘前市高等学校 1 学年

・盛り上がり方。(女) ・広い年代で取り組む。(男) ・トイレの数を増やす。(男) ・楽しむ。(男) ・台数を増やす。(男) ・CMで宣伝をする。(男) ・合同運行を盛んにする必要はない。(男) ・ねぶたからねぶたが出る仕組みにする。(男) ・賑やかにやる。(男) ・みんなが積極的に参加をする。(男) ・今のままでいい。(男) ・チラシを配る。(男) ・テレビで宣伝する。(男) ・観光客を参加させる。(男) ・アルバイトを多く雇う。(男) ・出店を多くする。(男) ・見ている人もかけ声をかける。(男) ・古い考えだけを尊重するのではなく、新しい考えも取り入れていく。(男) ・テレビでの生中継をする。(男) ・北東北 3 県で、祭りの交流会を行い、ねぶたを県外に輸出する。(男) ・他県、他市町村と祭り期間が被らないようにし、ツアーを組む。(男) ・今のままでいい。(男) × 2 ・見る人が見やすいように工夫をしてほしい。(男) ・県内外や世界での小規模な祭りをすればいい。(男) ・全団体が、飴やお菓子を振る舞えばいい。(女) ・今の体制を維持していくことが一番大事だと思う。(女) ・もっとねぶたに個性を出したほうがいい。皆同じに見える年がある。(女) ・弘前市内の高等学校が、ねぶたを制作・運行すればいい。(男) ・もっと大きなねぶたにすればいい。(男) ・昔ながらの絵の他に、新しく、楽しいものを加える。(女) ・ねぶた制作・運行は、楽しいものだから、残してほしい。(女) ・運行コースは今のままでいい。(女) ・土手町よりも、駅前運行の日数を増やしてほしい。(女) ・弘前ねぶたを見たことがないので、一切わからない。(男) ・他県へのアピール。(女) ・小学校などで、小さなねぶたを制作し、運行すればいい。(女) ・もっとねぶたをアピールすればいい。(女) ・終了時刻があまり遅くならないようにすればいい。(男) ・地域が協力して、さらに盛り上げていけばいい。(女) ・弘前市民の参加枠を設ける。(女)

Ⅱ. 小・中学校でのねぶた・ねぷたと 教育の関わり調査

1. 回収率

青森市、弘前市全小・中学校にお願いした調査票の回収率は表1のようである。回収率は、両市の合計で90.22%であった

表 1

	学校数	回答数	回答率
青森市小学校	54	48	88.89
青森市中学校	23	20	86.96
弘前市小学校	38	34	89.47
弘前市中学校	18	18	100.00
合計	133	120	90.22
青森市両校	77	68	88.31
弘前市両校	56	52	92.86
両市小学校	92	82	89.13
両市中学校	41	38	92.68

実施時期

2006年12月から2007年1月

2. 各質問項目の回答集計

(1) ねぶた・ねぷたへの学校での取り組みの有無

質問：「貴校では、学校の教育活動の一環として、①ねぶた・ねぷた本体、金魚ねぶた・ねぷたや灯ろうねぶた・ねぷた等の製作・制作、②学校独自、または、夏の合同運行・地域ねぶた・ねぷた祭りへの参加・運行、運行のための笛等の練習などを、教科、総合的な学習の時間、特別活動、行事、PTA子ども会活動などで取り上げていますか。」

ア 本年度、ねぶた・ねぷたの本体等の製作・制作をとりあげている。

イ 本年度、学校独自、又はそれ以外の祭りへの、参加・運行・参加のための練習を取り上げている。

ウ 本年度、特に取り上げていない。

エ 過去2年間に、ねぶた・ねぷたの本体等の製作・制作をとりあげていた。

オ 過去2年間に、学校独自、又はそれ以外の祭りへの、参加・運行・参加のための練習を取り上げていた。

表 2

* 複数回答あり

	ア、本年度の 製作・制作		イ、本年度の 参加・練習		ウ、本年度の 活動無し		エ、過去2年 間製作・制作		オ、過去2年 間参加・運行	
	(校)	(%)	(校)	(%)	(校)	(%)	(校)	(%)	(校)	(%)
青森市小学校	8	16.7	23	47.9	21	43.8	2	4.2	0	0
青森市中学校	3	15.0	2	10.0	15	75.0	1	5.0	0	0
弘前市小学校	9	26.5	8	23.5	22	64.7	2	5.9	0	0
弘前市中学校	6	33.3	6	33.3	9	50.0	0	0	0	0
合計	26	23.9	39	35.8	67	61.5	5	4.6	0	0
青森市両校	11	16.2	25	36.8	36	52.9	3	4.4	0	0
弘前市両校	15	28.8	14	26.9	31	59.6	2	3.8	0	0
両市小学校	17	20.7	31	37.8	43	52.4	4	4.9	0	0
両市中学校	9	23.7	8	21.1	24	63.2	1	2.6	0	0

(2) 質問1でア(本年度の製作・制作有)又はエ(過去2年間での製作・制作有)と回答した学校への質問

(2) - 1 取り上げている領域について

質問:「取り上げている領域は、次のどれですか。また、実施学年はいつですか。」

表3

*複数回答あり

	教科		総合的な学習の時間		特別活動		行事		PTA子ども会活動		その他	
	(校)	(%)	(校)	(%)	(校)	(%)	(校)	(%)	(校)	(%)	(校)	(%)
青森市小学校	1	10.0	4	40.0	0	0	1	10.0	6	60.0	0	0
青森市中学校	0	0	2	50.0	0	0	2	50.0	0	0	0	0
弘前市小学校	3	27.3	6	54.5	1	9.1	2	18.2	2	18.2	1	9.1
弘前市中学校	3	50.0	3	50.0	2	33.3	4	66.7	0	0	0	0
合計	7	22.6	15	48.4	3	9.7	9	29.0	8	25.8	1	3.2
青森市両校	1	7.1	6	42.9	0	0	3	21.4	6	42.9	0	0
弘前市両校	6	35.3	9	52.9	3	17.6	6	35.3	2	11.8	1	5.9
両市小学校	4	19.0	10	47.6	1	4.8	3	14.3	8	38.1	1	4.8
両市中学校	3	30.0	5	50.0	2	20.0	6	60.0	0	0	0	0

*教科は 小学校:図工-2校、生活-1校、不明-1校 中学校:美術-3校

*「総合的な学習」の実施学年 小学校:3~6年-4校、5~6年-7校

中学校:1~3年-2校、2年-1校、2~3年-1校、不明-1校

*全学年で行事を実施している 小学校:1校、中学校:3校

(2) - 2 製作・制作したものについて

質問:「製作・制作したものは、次のどれですか」

- ア 金魚ねぶた・ねぶたの、紙はり、墨書き、ロウ書き、色付けのみ。
- イ 金魚ねぶた・ねぶたの、骨組みから全ての製作・制作。
- ウ 灯ろうの、紙はり、墨書き、ロウ書き、色付けのみ。
- エ 灯ろうの、骨組みから全ての製作・制作。
- オ 学校独自の前・本体ねぶた・ねぶた等の製作・制作。
- カ 地域・合同運行の前・本体ねぶた・ねぶた等の製作・制作。
- キ その他

表4

*複数回答あり

	金魚ねぶた・ねぶたの色付けまで		金魚ねぶた・ねぶたの製作・制作		灯ろうねぶた・色付けまで		灯ろうねぶた・ねぶたの製作・制作		学校独自の本体の製作		合同運行などの、本体の製作		その他	
	校	%	校	%	校	%	校	%	校	%	校	%	校	%
青森市小学校	1	10.0	6	60.0	1	10.0	0	0	1	10.0	2	20.0	0	0.0
青森市中学校	1	25.0	0	0	0	0	0	0	2	50.0	0	0	1	25.0
弘前市小学校	2	18.2	1	9.1	7	63.6	0	0	4	36.4	0	0	1	9.1
弘前市中学校	1	16.7	0	0	3	50.0	1	16.7	4	66.7	0	0	0	0.0
合計	5	16.1	7	22.6	11	35.5	1	3.2	11	35.5	2	6.5	2	6.5
青森市両校	2	14.3	6	42.9	1	7.1	0	0	3	21.4	2	14.3	1	7.1
弘前市両校	3	17.6	1	5.9	10	58.8	1	5.9	8	47.1	0	0	1	5.9
両市小学校	3	14.3	7	33.3	8	38.1	0	0	5	23.8	2	9.5	1	4.8
両市中学校	2	20.0	0	0	3	30.0	1	10.0	6	60.0	0	0	1	10.0

(3) 質問1でイ（本年度の参加・運行有）又はオ（過去2年間に参加・運行有）と回答した学校への質問

(3) - 1 参加・運行している祭りの種類について

質問：「参加・運行しているねぶた・ねぶた祭りは、次のどれですか」

表 5

*複数回答あり

	ア、学校独自		イ、地域の祭り		ウ、夏の合同運行祭り		エ、その他	
	(校)	(%)	(校)	(%)	(校)	(%)	(校)	(%)
青森市小学校	5	21.7	12	52.2	11	47.8	0	0
青森市中学校	0	0.0	1	50.0	1	50.0	0	0
弘前市小学校	2	25.0	4	50.0	4	50.0	0	0
弘前市中学校	3	50.0	2	33.3	0	0.0	0	0
合計	10	25.6	19	48.7	16	41.0	0	0
青森市両校	5	20.0	13	52.0	12	48.0	0	0
弘前市両校	5	35.7	6	42.9	4	28.6	0	0
両市小学校	7	22.6	16	51.6	15	48.4	0	0
両市中学校	3	37.5	3	37.5	1	12.5	0	0

(3) - 2 参加・運行を取り上げている領域について

質問：「参加・運行を取り上げている領域は、次のどれですか。また、実施学年はいつですか。」

表 6

*複数回答あり

	教科		総合的な学習の時間		特別活動		行事		PTA子ども会活動		その他	
	校	%	校	%	校	%	校	%	校	%	校	%
青森市小学校	0	0	1	4.3	0	0	3	13.0	19	82.6	3	13.0
青森市中学校	0	0	2	100.0	0	0	0	0	0	0.0	1	50.0
弘前市小学校	0	0	2	25.0	0	0	2	25.0	4	50.0	2	25.0
弘前市中学校	0	0	0	0.0	0	0	3	50.0	1	16.7	1	16.7
合計	0	0	5	12.8	0	0	8	20.5	24	61.5	7	17.9
青森市両校	0	0	2	12.0	0	0	3	12.0	19	76.0	4	16.0
弘前市両校	0	0	2	14.3	0	0	5	35.7	5	35.7	3	21.4
両市小学校	0	0	3	9.7	0	0	5	16.1	23	74.2	5	16.1
両市中学校	0	0	2	25.0	0	0	3	37.5	1	12.5	2	25.0

*「総合的な学習」の実施学年 小学校：3～6年－2校、5～6年－1校、不明－1校
中学校：1～3年－1校、2年－1校

*PTA子ども会活動は全学で実施しているところが、小学校で17校

*行事は全学で実施しているところが、小学校で4校、中学校で1校

(3) - 3 運行のための練習を学校として行っているかの有無

質問：「運行のための笛、太鼓等の練習を取り上げていますか」

表 7

	ア、取り上げている		イ、取り上げていない		ウ、その他	
	(校)	(%)	(校)	(%)	(校)	(%)
青森市小学校	13	56.5	6	26.1	3	13.0
青森市中学校	2	100.0	0	0.0	0	0.0
弘前市小学校	4	50.0	4	50.0	0	0.0
弘前市中学校	1	16.7	4	66.7	0	0.0
合計	20	51.3	14	35.9	3	7.7
青森市両校	15	60.0	6	24.0	3	12.0
弘前市両校	5	35.7	8	57.1	0	0.0
両市小学校	17	54.8	10	32.3	3	9.7
両市中学校	3	37.5	4	50.0	0	0.0

* 未記入校
2校

(3) - 4 運行のための練習を取り上げている領域について

質問：「ア（取り上げている）と回答した学校は、練習を取り上げている領域は次のどれですか。」

表 8

* 複数回答あり

	教科		総合的な学習の時間		特別活動		行事		PTA子ども会活動		その他	
	校	%	校	%	校	%	校	%	校	%	校	%
青森市小学校	0	0	0	0	0	0	0	0	12	92.3	1	7.7
青森市中学校	0	0	1	50.0	0	0	0	0	0	0	0	0
弘前市小学校	0	0	1	25.0	0	0	0	0	2	50.0	1	25.0
弘前市中学校	1	100	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	5.0	2	10.0	0	0	0	0	14	70.0	2	10.0
青森市両校	0	0	1	6.7	0	0	0	0	12	80.0	1	6.7
弘前市両校	1	20.0	1	20.0	0	0	0	0	2	40.0	1	20.0
両市小学校	0	0	1	5.9	0	0	0	0	14	82.4	2	11.8
両市中学校	1	33.3	1	33.3	0	0	0	0	0	0	0	0

*教科は、中学校：音楽－1校

*PTA子ども会活動では、小学校で全学年の子ども対象にして練習している

(4) 質問1でウ（本年度特に取り上げていない）と回答した学校への質問

質問：「特に取りあげていない学校にお聞きします。次年度以降、取り上げる予定がありますか」

表 9

	特に予定していない		予定がある	
	(校)	(%)	(校)	(%)
青森市小学校	20	95.2	1	4.8
青森市中学校	15	100.0	0	0.0
弘前市小学校	21	95.5	1	4.5
弘前市中学校	8	88.9	1	11.1
合計	64	95.5	3	4.5
青森市両校	35	97.2	1	2.8
弘前市両校	29	93.5	2	6.5
両市小学校	41	95.3	2	4.7
両市中学校	23	95.8	1	4.2

* 予定のある学校は、

(5) ねぶた・ねぶたについての学習や講話について

(5) - 1 ねぶた・ねぶたについての学習や講話の実施の有無

質問：「ねぶたについての学習や講話についてお聞きます。ねぶたについての歴史学習やねぶた関係者の講話等を行っていますか」

表 10

	ア、行っている		イ、行っていない	
	(校)	(%)	(校)	(%)
青森市小学校	8	16.7	39	81.3
青森市中学校	1	5.0	19	95.0
弘前市小学校	2	5.9	32	94.1
弘前市中学校	3	16.7	15	83.3
合計	14	12.8	105	96.3
青森市両校	9	13.2	58	85.3
弘前市両校	5	9.6	47	90.4
両市小学校	10	12.2	71	86.6
両市中学校	4	10.5	34	89.5

(5) - 2 講話等を行っている学校での、実施内容について

質問：「行っている学校での、実施内容は何ですか」 *複数回答あり

- ア ねぶた・ねぶたの歴史や伝統文化の伝承について
- イ ねぶた・ねぶたの形や絵について
- ウ その他

表 11

*複数回答あり

	ア、歴史・伝統文化の継承		イ、形や絵		ウ、その他	
	(校)	(%)	(校)	(%)	(校)	(%)
青森市小学校	7	87.5	4	50.0	2	25.0
青森市中学校	0	0.0	0	0.0	1	100.0
弘前市小学校	2	100.0	2	100.0	0	0.0
弘前市中学校	0	0.0	3	100.0	0	0.0
合計	9	64.3	9	64.3	3	21.4
青森市両校	7	77.8	4	44.4	3	33.3
弘前市両校	2	40.0	5	100.0	0	0.0
両市小学校	9	90.0	6	60.0	2	20.0
両市中学校	0	0.0	3	75.0	1	25.0

*その他は、小学校で、お雛子の講話と体験－1校、ねぶた師の人生講話－1校
中学校で、絵付けの講話と絵付け

(5) - 3 講話等を行っている学校での、指導者について

質問：「行っている学校での、指導者は誰ですか。」

- ア 教師のみ
- イ 学校外のねぶた・ねぶた関係者が中心
- ウ 教師と学校外のねぶた・ねぶた関係者
- エ その他

表 12

	ア、教師のみ		イ、学校外の関係者		ウ、教師と学校外の関係者		オ、その他	
	(校)	(%)	(校)	(%)	(校)	(%)	(校)	(%)
青森市小学校	2	25.0	3	37.5	3	37.5	0	0
青森市中学校	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0
弘前市小学校	0	0.0	2	100.0	0	0.0	0	0
弘前市中学校	0	0.0	2	66.7	1	33.3	0	0
合計	2	14.3	8	57.1	4	28.6	0	0
青森市両校	2	22.2	4	44.4	3	33.3	0	0
弘前市両校	0	0.0	4	80.0	1	20.0	0	0
両市小学校	2	20.0	5	50.0	3	30.0	0	0
両市中学校	0	0.0	3	75.0	1	25.0	0	0

(5) - 4 講話等を行っている学校での実施領域について

質問：「行っている学校での実施領域は、次のどれですか。また、実施学年はいつですか。」

表 13

*複数回答あり

	教科		総合的な学習の時間		特別活動		行事		PTA子ども会活動		その他	
	校	(%)	校	(%)	校	(%)	校	(%)	校	(%)	校	(%)
青森市小学校	0	0.0	5	62.5	1	12.5	1	12.5	1	12.5	0	0
青森市中学校	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0
弘前市小学校	0	0.0	1	50.0	0	0.0	0	0.0	1	50.0	0	0
弘前市中学校	1	33.3	2	66.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0
合計	1	7.1	9	64.3	1	7.1	1	7.1	2	14.3	0	0
青森市両校	0	0.0	6	66.7	1	11.1	1	11.1	1	11.1	0	0
弘前市両校	1	20.0	3	60.0	0	0.0	0	0.0	1	20.0	0	0
両市小学校	0	0.0	6	60.0	1	10.0	1	10.0	2	20.0	0	0
両市中学校	1	25.0	3	75.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0

(2) 青森ねぶたの子ども意識調査の概要と青森市への提言

平成 20 年 7 月 10 日

青森市教育委員会 教育長 角田 詮二郎 様

小・中・高校生のねぶたへの意識と祭りへの思い(意見)の 概要報告と提言(祭り発展への基礎資料の提供)

～ねぶた・ねぶたの子ども意識調査、子どもの祭りへの
思い(意見)調査、ねぶた・ねぶたと学校の関わり調査～

弘前大学教育学部ねぶた・ねぶたと学校教育研究プロジェクト
研究代表 弘前大学教育学部・教授 大谷良光
ねぶた師内山龍星・弟子 立田健太

ねぶた・ねぶたが益々充実・発展することを願い、子ども(小・中・高校生)の視点からねぶた・ねぶたを捉えるため、①ねぶた・ねぶたの子どもの関わり、子どものねぶた・ねぶたへの製作・制作・祭りへの意識(すばらしい、楽しい等)調査、②祭り運行への思い(意見)の調査を青森市と弘前市の小学校 15 校、中学校 12 校、高等学校 3 校に依頼し、約 4,000 サンプルをまとめることができました。また、③ねぶた・ねぶたと学校教育の関わり調査を青森市・弘前市の全小・中学校に依頼し 90%の回答を寄せて頂きました。以下三つの調査の概要を報告し、僭越ながらそれらを踏まえねぶた・ねぶた振興の提言を行いたいと思います。

貴委員会において調査報告・提言を資料とし活用され、祭りの充実・発展のための施策に反映して頂ければ幸いです。

尚本調査研究は、平成 20 年度の文部科学省・科学研究費補助金(基盤研究(C))対象になりましたので、今後 4 年間別紙研究計画「津軽ねぶた・ねぶたの教育化～調査研究とカリキュラム開発～」のように展開していく予定です。

本報告の詳細は、別冊『データ報告書』をご覧ください。

《本概要報告の内容》

概要報告全体の要約と提言

- I. ねぶた・ねぶたの子ども意識調査
- II. ねぶた・ねぶた祭りに対しての子どもの思い(意見)調査
- III. 小・中学校でのねぶた・ねぶたと教育の関わり調査
- IV. 今後の研究計画

《概要報告全体の要約と提言》

◎調査の規模と方法

「ねぶた・ねぶたの子ども意識調査」と「ねぶた・ねぶた祭りに対しての子どもの思い(意見)調査」は、青森市の小学校 7 校第 4 学年 436 名、第 6 学年 449 名、中学校 8 校第 2 学年 921 名、高等学校 1 校第 1 学年 299 名、青森市合計 2,105 名、弘前市の小学校 8 校第 4 学年 511 名、第 6 学年 406 名、中学校 4 校第 2 学年 418 名、高等学校 2 校第 1 学年 496 名、弘前市合計 1,831 名、総合計 3,936 名を質問紙により、2007 年 11 月から

2008年2月にかけて実施した。また、「ねぶた・ねぷたと学校教育との関わり調査」は2006年12月から2007年1月にかけて青森市・弘前市全小・中学校に質問紙で依頼し、回収率は両市で90.2%であった。

◎調査結果全体の要約

「ねぶた・ねぷたの子ども意識調査」によれば、小・中・高校生の8割は、「ねぶた・ねぷたが世界に誇れる祭り、日本有数の祭り」と思い、「古くから伝わる祭りを大切にし、自分たちの子どもに伝える必要がある」と考えている。そして「学校の授業・行事に祭りや制作を取り入れたほうがよい」と5割強の子どもが考え、高校生を含め2割の子どもが「ねぶた師・ねぷた絵師になれるならばなってみよう」と思い、4割の子どもがラッセランドや制作小屋に出かけている。

「ねぶた・ねぷた祭りに対しての子ども思い（意見）調査」によれば、大型ねぶたの運行コース、運行時間については、現在のままでよいが6割前後で、4割弱の子どもが延長を求めている。一方ねぶたの合同運行のコースと運行時間は、8割弱が現行の方法を支持している。

「ねぶた・ねぷたと学校教育との関わり調査」によれば、何らかの内容でねぶた・ねぷたを取り入れている小・中学校は、全学校の4割強で、それらを取り入れている教育課程の領域は、小・中学校とも「総合的な学習の時間」が5割と多く、他に小学校はPTA子ども会活動、中学校は行事が主である。

◎本調査を踏まえたねぶた・ねぷた振興の提言

◇青森市・ねぶた振興の提言

ねぶたの継続と充実・発展の課題は三つある。一つは、大型ねぶたの運行コース、運行時間について、4割弱の子どもが延長を求めている事に対し、観光客や他の社会構成層の意見を聞きながら、諸条件を考慮しての検討が必要といえる。

第二は、ねぶた師の後継者問題である。現在ねぶた師は12名、表出している弟子は4名しかいない。祭りのメインである本体の制作後継者がこのような状況では、ねぶた祭りの継続にとって心配である。立田健太が本調査に取り組んだ動機はここにあり、後継者を養成するための施策、特に職業として自立できる経済的見通し、また、幼少時からねぶたを製作・制作することによりその魅力にとりつかれ弟子として志願する環境の整備が求められる。本調査では、多くの子どもが祭りを誇りに思い、継承していきたいと願い、少なくない子どもがねぶた師に憧れ、ラッセランドに出かけていることがわかった。環境整備の施策と充実が求められる。

三つは、「青森ねぶた保存伝承条例」が施行されているためか、学校でねぶたを何らかの内容で取り入れている学校は47%（小学校56%、中学校25%）である。また、5割強の子どもは、学校でねぶたを取り入れるべきと考えている。地域の文化の拠点としてねぶたを位置づけ、多くの学校がねぶたを教育内容、または、教材として取り上げ、地域ねぶたの復興を図ることが必要かつ可能と思われ、このことが大型ねぶた祭りの担い手の裾野を拓けることになる。しかし、新学習指導要領では、ねぶたの活動の場であった「総合的な学習の時間」が削減され、「教育改革」の嵐の中でますます多忙化している学校に「ねぶたの教育化」を一面的に求めることは困難な面もあり、教育委員会としての支援がなければさらなる前進は図られないといえる。また、建設予定の「ねぶたミュージアム」等の施設で、子どもがねぶたの製作・制作ができる機会を増やし充実することも必要と思われる。

I. ねぶた・ねぷたへの子ども意識調査（ねぶた・ねぷた子ども意識尺度調査）

16質問項目に対して5段階（強くそう思う、どちらかといえばそう思う、わからない、どちらかといえばそう思わない、そう思わない）の尺度より選択して回答を求め、「強くそう思う・どちらかといえばそう思う」を肯定的評価と判断した。結果を四つの視点により整理した。

本報告では、四つの学年の合計値を使用し、学年による異なりを検討する必要性のある項目に限り、学年値を取り上げることにした。

《ねぶた・ねぷたの子ども意識調査の要約》

小学生から高校生までの8割の子どもは、「ねぶた・ねぷたが世界に誇れる祭り、日本有数の祭り」と思い、「古くから伝わる祭りを大切にし、自分たちの子どもに伝える必要がある」と考えている。そして、祭

りの運行内容ですばらしいものは、囃子とねぶた・ねぶた本体にあると多くの子ども（8割）が認識している。「ねぶた・ねぶたの制作のお手伝いをする」「金魚ねぶた・ねぶた等を制作すること」をすばらしい・楽しいと思っている子どもは6割弱である。

「学校の授業・行事に祭りや制作を取り入れたほうがよい」と考えている子どもが56%おり、特に小学校4年生は71%と高い。また、高校生を含め2割の子どもが「ねぶた師・ねぶた絵師になれるならばなってみよう」と思っており、4割の子どもがラッセランドや制作小屋に出かけている。

以下、各項目ごとの概要を紹介する。

(1) ねぶた・ねぶた祭りと社会との関わりについての意識

「ねぶた・ねぶたが世界に誇れる祭りと思う」は、青森市84%、弘前市73%、全体79%であり、青森市は弘前市より11%高く、「日本有数の祭りだと思う」は、青森市86%、弘前市76%、全体81%で、多くの子どもがねぶた・ねぶたを誇りに思っていることがわかる。両市における10%の違いは、マスコミの取り上げ方の違いによる、全国的な知名度に対するものと推測される。また、「古くから伝わる祭りを大切にすることが必要」は、青森市86%、弘前市は77%、全体82%で、「古くから伝わる祭りを自分の子どもに伝える必要がある」について両市ともに81%であった。伝統文化の継承の必要性を子どもながらに考えていると思われる。

(2) ねぶた・ねぶた祭りの運行内容についての意識

祭り運行時の囃子、踊り（引き手）、ねぶた本体についての「すばらしさ」は、囃子が青森市85%、弘前市79%、全体82%ともっとも高く、「ねぶた・ねぶた本体、前ねぶた・ねぶたがすばらしい」も、青森市84%、弘前市78%、全体81%のほぼ同率であり、祭りの「すばらしさ」を感じるのは主に囃子、本体にあるといえる。また、ねぶたの「踊り」（73%）、ねぶたの「引き手」（64%）の全体が68%で、囃子や本体に比べ13%下回っている。また、大型組みねぶたが運行する青森市が3項目とも6%上回っている。

(3) ねぶた・ねぶた制作についての意識

「ねぶた・ねぶた制作をお手伝いすることがすばらしく、楽しい」は、青森市53%、弘前市56%、全体55%であり、両市とも小4がねぶた69%、ねぶた66%と高い。また、「金魚ねぶた・ねぶた、灯籠ねぶた・ねぶたを制作することがすばらしく、楽しい」は、青森市56%、弘前市61%、全体58%でこれも両市とも小4がねぶた76%、ねぶた75%と特に高い。祭りの運行に比べ制作のお手伝いや、金魚ねぶた・ねぶたの制作への意識は2～3割減じるが、6割弱の子どもが制作に関心を持っていることは、やはりねぶた・ねぶた本体の魅力に繋がるものと思われる。さらに、「ねぶた・ねぶたの製作・制作のすばらしさ、楽しさは骨組みを組み立てることにある」について青森市45%、弘前市49%、全体47%で、「ねぶた・ねぶた制作のすばらしさ、楽しさはデザインと色づかいにある」が青森市73%、弘前市74%、全体73%であり、子どもは、骨組みより色づかいへの感心が高いという。この差は骨組みより色づけを身近で経験しているからと思われる。

(4) 学校の授業・行事でねぶた・ねぶたを取り入れることについての意識（肯定）

学校の授業・行事で「ねぶた・ねぶた祭りを取り入れる」については、青森市54%、弘前市59%、全体56%で、両市とも小4がねぶた71%、ねぶた67%と高い。また、「ねぶた・ねぶたの制作を取り入れる」については、青森市55%、弘前市57%、全体56%であるが、これも両市とも小4がねぶた76%、ねぶた70%と高い。上記両項目は両市とも中2が最も低く、弘前市において高1が平均値であることは注目に値する。

学校調査によれば、ねぶた・ねぶたの参加・練習を取り上げている学校は36%（両市の小・中学校合計）で、制作を取り入れている学校は24%（両市の小・中学校合計）であることを考えれば、5割以上の子どもが「取り入れた方がよい」と答えていることに注視する必要がある、特に小学校段階において取り入れることは、子どもの要求に合致し意義あることと考えられる。

(5) ねぶた師・ねぶた絵師、制作小屋参観への意識

「ねぶた師・ねぶた絵師になれるならばなってみよう」について青森市19%、弘前市18%であった。両市全体で、小4-33%、小6-14%、中2-15%、高1-17%、さらに「強くそう思う」が両市の全体で、小4-16%、小6-6%、中2-7%、高1-8%と、夢の段階である小学校4年生はともかく、進路を熟考する高校生においても2割近くの生徒が、ねぶた師・ねぶた絵師を進路の一つと考えていることは、ねぶた・ねぶたへの強い意気込みが感じられる。この結果は、ねぶた・ねぶた関係者にとって心強いものといえる。

また、「ねぶた・ねぶた制作小屋に行き、制作風景を見たことがあるか」について青森市 44%、弘前市 38%、全体 41 %であった。両市の6 %の違いは、制作現場の位置が関係していると思われる。ねぶたの場合絵師の自宅または工房での制作が主で、貼り付け作業の小屋の設置は6月中旬からで、これに対しねぶたは、小屋の立ち上げが5月上旬でラッセランドに行けばいつでも製作・制作風景を見ることが出来る。しかし、小屋に同一の子どもが足を運ぶ回数は、青森市で平均 2.1 回、弘前市で 3.7 回であり、ねぶたは囃子の練習などを小屋周辺で行うために回数が多くなっていると思われる。

II. ねぶた・ねぶた祭りに対しての子どもの思い（意見）調査

現在のねぶた・ねぶた祭りをよりよいものにしていく目的で、子どもたちが実施形態・内容についてどのように思っているかを「運行コース」「運行時間」「スタート」「審査の評価観点」の四項目で調査した。本調査では、四つの学年の合計値を使用し、学年による異なりを検討する必要性のある項目に限り、学年値を取り上げることにする。

《 ねぶた・ねぶた祭りに対しての子どもの思い（意見）の要約 》

大型ねぶたの運行コース、運行時間については、現在のままでよいが6割前後であり、延長を求める子どもの思いが無視できない数値であるため、諸条件を鑑み来年度へ向けての検討課題となると思われる。一方ねぶたの合同運行のコースと運行時間は、8割弱が現行の方法を支持している。

運行のスタート方法は、両市とも8割弱が現行の方法を支持し、祭り評価の観点については、両市ともねぶた・ねぶた本体と団体全体の運行形態が6割であるが、思いとしてはねぶた・ねぶた本体に傾斜し、運行では囃子に着目している。

(1) 「運行コース」「運行時間」について

青森市の大型ねぶたの運行コースは「現在のままでよい」が64%、「長くする」29%、「短くする」5%で、弘前市の合同運行の「2コースがよい」は77%、「土手町1本」は17%である。また、ねぶたの「運行時間」は「現在のままでよい」が56%、「長くする」36%、「短くする」5%で、ねぶたは、「現在のままでよい」78%で、「短くする」は19%である。

青森市の小学校4年生は、運行コースの延長を36%、時間の延長を40%が求め突出している。弘前市は、学年による違いは少ない。これらから、青森市のねぶたに対して、3から4割の子どもたちが、運行コースと運行時間の延長を望んでいるといえる。

(2) 「運行のスタート方法」について

「運行のスタート方法」について青森市76%、弘前市77%が現在のスタート方法でよい。また、青森市の21%が従来の「吹き流し方式」を、弘前市の20%が「一斉スタート（現在の青森ねぶたのスタート方式）」がよいとのことである。多くの子どもは現行のスタート方法に慣れ親しんでおり、両市とも概ね妥当と思っているといえる。しかし、相互に観覧した子どもから他の方式を指示する思いが2割存在することは注目に値する。また、ねぶたは自由記述の意見の中に、従来の「一斉スタート」を求める声が多い。

(3) 祭り審査の評価観点について

「あなたが祭りの審査委員であったとすれば、祭りの何に注目して評価するか」については、「ねぶた・ねぶた本体と団体全体の運行形態 (C)」が青森市62%、弘前市61%で、祭りそのものを総合的に審査するという見方が多い。「ねぶた・ねぶた本体 (A)」に限定した見方は、青森市27%、弘前市24%であり、ねぶたは学年が上がるに従い（小4-21%、高1-33%）注目度が高くなるのが特徴的である。「団体全体の運行形態 (B)」に限定した見方は青森市8%、弘前市11%で、両市ともねぶた・ねぶた本体への注目が高いことが伺われる。

また、「ねぶた・ねぶた本体の何を主に評価しますか」（上記 (A) (C) 回答者限定、選択肢より複数選ぶ）では、「迫力」（ねぶた34%、ねぶた32%）が両市とも一番多く、次に「デザイン・色づかい」（ねぶた29%、ねぶた29%）、「構図などのバランス」（ねぶた19%、ねぶた18%）、「面（顔）」（ねぶた14%、ねぶた13%）、「送り絵」（ねぶた4%、ねぶた8%）で、両市とも共通している。

「ねぶた・ねぶた祭りの団体全体の運行形態」（上記 (B) (C) 回答者限定、選択肢より複数選ぶ）では、ねぶたは「囃子」（28%）「ハネトの踊り方」（19%）「ねぶたの回し方」（19%）、ねぶたは「かけ声」（34%）「囃子」（30%）「ねぶたの回し方」（20%）で、両市とも伝統的な囃子に着目しているといえる。

(4) ねぶた・ねぶた祭りをもっと盛んにするための意見・アイディア―別紙

「ねぶた・ねぶた祭りをもっと盛んにするためのアイディア」を自由記述で求めたところ、多くの子どもたちが提案・記述してくれた。別紙「データ報告書」参照。

Ⅲ. 小・中学校でのねぶた・ねぶたと教育の関わり調査

《 ねぶた・ねぶたと学校教育の関わり調査の要約 》

ねぶた・ねぶたを何らかの内容で取り入れている小・中学校は、全学校の4割強で、その内金魚ねぶた・ねぶた等の製作・制作を実施している教育課程の領域は、「総合的な学習の時間」が5割と多く、他に小学校はPTA子ども会活動が4割、中学校は行事が6割である。また、合同運行・地域運行・学校独自の祭りへの参加・運行を行っている学校での教育課程の領域は、「総合的な学習の時間」が5割で、他に小学校はPTA子ども会活動が7割強、中学校は行事が4割弱である。

本調査は、2006年12月から2007年1月にかけて青森市・弘前市全小・中学校に依頼した。回収率は両市全体で90.2%で、任意調査としては高い回収率となり、各校のねぶた・ねぶたへの配慮が伺われるものとなった。

①「ねぶた・ねぶたを学校で取り入れているか」で、金魚・本体等ねぶた・ねぶたの製作・制作を行っている学校は、両市合わせて小学校21%、中学校24%、合同運行・地域運行・学校独自の祭りへの参加・運行・練習を行っている学校は、小学校38%、中学校21%で、製作・制作と参加・運行・練習を行っている学校は重なっているところが多いため、4割強の学校がねぶた・ねぶたを学校教育に取り入れていることになる。

②金魚・本体等ねぶた・ねぶたの製作・制作を行っている学校で取り扱っている教育課程の領域は、教科が両市合わせて小学校19%、中学校30%、「総合的な学習の時間」が小学校48%、中学校50%、特別活動（学級活動等）が小学校5%、中学校20%、行事が小学校14%、中学校60%、PTA子ども会活動が小学校38%、中学校0%である。

③合同運行・地域運行・学校独自の祭りへの参加・運行を行っている学校での教育課程の領域は、教科が両市合わせて小・中学校とも0%、「総合的な学習の時間」が小学校48%、中学校50%、特別活動が小・中学校とも0%、行事が小学校16%、中学校38%、PTA子ども会活動が小学校74%、中学校13%である。この中で、全学年で行事を行っている学校は、小学校4校、中学校1校である。

新学習指導要領で「総合的な学習の時間」が大幅に削減されるため、ねぶた・ねぶたをどの領域で取り上げていくか今後の大きな課題となる。また他の6項目については紙幅の関係で省略するため、資料の『データ報告書』を参照して下さい

(3) 弘前ねぶたへ子ども意識調査の概要と弘前市への提言

平成 20 年 7 月 7 日

弘前市 市長 相馬 鋳一 様
弘前市教育委員会 教育長 石岡 徹 様

小・中・高校生のねぶたへの意識と祭りへの思い(意見)の 概要報告と提言(祭り発展への基礎資料の提供)

～ねぶた・ねぶたの子ども意識調査、子どもの祭りへの 思い(意見)調査、ねぶた・ねぶたと学校の関わり調査～

弘前大学教育学部ねぶた・ねぶたと学校教育研究プロジェクト
研究代表 弘前大学教育学部・教授 大谷良光
ねぶた師内山龍星・弟子 立田健太

ねぶた・ねぶたが益々充実・発展することを願い、子ども(小・中・高校生)の視点からねぶた・ねぶたを捉えるため、①ねぶた・ねぶたの子どもの関わり、子どものねぶた・ねぶたへの製作・制作・祭りへの意識(すばらしい、楽しい等)調査、②祭り運行への思い(意見)の調査を青森市と弘前市の小学校 15 校、中学校 12 校、高等学校 3 校に依頼し、約 4,000 サンプルをまとめることができました。また、③ねぶた・ねぶたと学校教育の関わり調査を青森市・弘前市の全小・中学校に依頼し 90%の回答を寄せて頂きました。以下三つの調査の概要を報告し、僭越ながらそれらを踏まえねぶた・ねぶた振興の提言を行いたいと思います。

貴委員会において調査報告・提言を資料とし活用され、祭りの充実・発展のための施策に反映して頂ければ幸いです。

尚本調査研究は、平成 20 年度の文部科学省・科学研究費補助金(基盤研究(C))対象になりましたので、今後 4 年間別紙研究計画「津軽ねぶた・ねぶたの教育化～調査研究とカリキュラム開発～」のように展開していく予定です。

本報告の詳細は、別冊『データ報告書』をご覧ください。

《本概要報告の内容》

概要報告全体の要約と提言

- I. ねぶた・ねぶたの子ども意識調査
- II. ねぶた・ねぶた祭りに対しての子どもの思い(意見)調査
- III. 小・中学校でのねぶた・ねぶたと教育の関わり調査
- IV. 今後の研究計画

《概要報告全体の要約と提言》

◎調査の規模と方法

「ねぶた・ねぶたの子ども意識調査」と「ねぶた・ねぶた祭りに対しての子どもの思い(意見)調査」は、青森市の小学校 7 校第 4 学年 436 名、第 6 学年 449 名、中学校 8 校第 2 学年 921 名、高等学校 1 校第 1 学年 299 名、青森市合計 2,105 名、弘前市の小学校 8 校第 4 学年 511 名、第 6 学年 406 名、中学校 4 校第 2 学年 418 名、高等学校 2 校第 1 学年 496 名、弘前市合計 1,831 名、総合計 3,936 名を質問紙により、2007 年 11 月から 2008 年 2 月にかけて実施した。また、「ねぶた・ねぶたと学校教育との関わり調査」は 2006 年 12 月から 2007

年1月にかけ青森市・弘前市全小・中学校に質問紙で依頼し、回収率は両市で90.2%であった。

◎調査結果全体の要約

「ねぶた・ねぶたの子ども意識調査」によれば、小・中・高校生の8割は、「ねぶた・ねぶたが世界に誇れる祭り、日本有数の祭り」と思い、「古くから伝わる祭りを大切にし、自分たちの子どもに伝える必要がある」と考えている。そして「学校の授業・行事に祭りや制作を取り入れたほうがよい」と5割強の子どもが考え、高校生を含め2割の子どもが「ねぶた師・ねぶた絵師になれるならばなってみよう」と思い、4割の子どもがラッセランドや制作小屋に出かけている。

「ねぶた・ねぶた祭りに対しての子どもの思い（意見）調査」によれば、大型ねぶたの運行コース、運行時間については、現在のままでよいが6割前後で、4割弱の子どもが延長を求めている。一方ねぶたの合同運行のコースと運行時間は、8割弱が現行の方法を支持している。

「ねぶた・ねぶたと学校教育との関わり調査」によれば、何らかの内容でねぶた・ねぶたを取り入れている小・中学校は、全学校の4割強で、それらを取り入れている教育課程の領域は、小・中学校とも「総合的な学習の時間」が5割と多く、他に小学校はPTA子ども会活動、中学校は行事が主である。

◎本調査を踏まえたねぶた・ねぶた振興の提言

◇弘前市・ねぶた振興の提言

ねぶた合同運行コースと運行時間、スタート方法については、多くの子どもに支持され地域と一体となった取り組みは評価されている。しかし、子どもたちの「郷土の伝統や文化を受け止め、それを継承・発展させるための教育の充実」（新学習指導要領）への課題を意識し、さらにねぶたを充実・発展させるため、次の課題に取り組むことを求めたい。

弘前市は地域ねぶたが盛んで、その多くがねぶた祭り合同運行に参加しているが、学校でねぶたを何らかの内容で取り入れているのは4割（小学校35%、中学校50%）である。ところが、6割弱の子どもは、学校で取り入れるべきと考えている。地域の文化の拠点としてねぶたを位置づけ、多くの学校がねぶたを教育内容、または、教材として取り上げ、地域ねぶたの復興を図ることが必要かつ可能と思われる。しかし、新学習指導要領では、ねぶたの活動の場であった「総合的な学習の時間」が削減され、「教育改革」の嵐の中でますます多忙化している学校に「ねぶたの教育化」を一面的に求めることは困難な面もあり、市として、また教育委員会としての支援がなければ前進は図られないと思われる。

I. ねぶた・ねぶたへの子ども意識調査（ねぶた・ねぶた子ども意識尺度調査）

16質問項目に対して5段階（強くそう思う、どちらかといえばそう思う、わからない、どちらかといえばそう思わない、そう思わない）の尺度より選択して回答を求め、「強くそう思う・どちらかといえばそう思う」を肯定的評価と判断した。結果を四つの視点により整理した。

本報告では、四つの学年の合計値を使用し、学年による異なりを検討する必要性のある項目に限り、学年値を取り上げることにした。

《 ねぶた・ねぶたの子ども意識調査の要約 》

小学生から高校生までの8割の子どもは、「ねぶた・ねぶたが世界に誇れる祭り、日本有数の祭り」と思い、「古くから伝わる祭りを大切にし、自分たちの子どもに伝える必要がある」と考えている。そして、祭りの運行内容ですばらしいものは、囃子とねぶた・ねぶた本体にあると多くの子ども（8割）が認識している。「ねぶた・ねぶたの制作のお手伝いをする」「金魚ねぶた・ねぶた等を制作すること」をすばらしい・楽しいと思っている子どもは6割弱である。

「学校の授業・行事に祭りや制作を取り入れたほうがよい」と考えている子どもが56%おり、特に小学校4年生は71%と高い。また、高校生を含め2割の子どもが「ねぶた師・ねぶた絵師になれるならばなってみよう」と思っており、4割の子どもがラッセランドや制作小屋に出かけている。

以下、各項目ごとの概要を紹介する。

(1) ねぶた・ねぶた祭りと社会との関わりについての意識

「ねぶた・ねぶたが世界に誇れる祭りと思う」は、青森市 84%、弘前市 73%、全体 79 %であり、青森市は弘前市より 11%高く、「日本有数の祭りだと思う」は、青森市 86%、弘前市 76%、全体 81 %で、多くの子どもがねぶた・ねぶたを誇りに思っていることがわかる。両市における 10 %の違いは、マスコミの取り上げ方の違いによる、全国的な知名度に対するものと推測される。また、「古くから伝わる祭りを大切にすることが必要である」は、青森市 86%、弘前市は 77%、全体 82 %で、「古くから伝わる祭りを自分の子どもに伝える必要がある」について両市ともに 81 %であった。伝統文化の継承の必要性を子どもながらに考えていると思われる。

(2) ねぶた・ねぶた祭りの運行内容についての意識

祭り運行時の囃子、踊り(引き手)、ねぶた本体についての「すばらしさ」は、囃子が青森市 85%、弘前市 79%、全体 82 %ともっとも高く、「ねぶた・ねぶた本体、前ねぶた・ねぶたがすばらしい」も、青森市 84%、弘前市 78%、全体 81 %のほぼ同率であり、祭りの「すばらしさ」を感じるのには主に囃子、本体にあるといえる。また、ねぶたの「踊り」(73 %)、ねぶたの「引き手」(64 %)の全体が 68 %で、囃子や本体に比べ 13%下回っている。また、大型組みねぶたが運行する青森市が 3項目とも 6%上回っている。

(3) ねぶた・ねぶた制作についての意識

「ねぶた・ねぶた制作をお手伝いすることがすばらしく、楽しい」は、青森市 53%、弘前市 56%、全体 55 %であり、両市とも小4がねぶた 69%、ねぶた 66%と高い。また、「金魚ねぶた・ねぶた、灯籠ねぶた・ねぶたを制作することがすばらしく、楽しい」は、青森市 56%、弘前市 61%、全体 58 %でこれも両市とも小4がねぶた 76%、ねぶた 75%と特に高い。祭りの運行に比べ制作のお手伝いや、金魚ねぶた・ねぶたの制作への意識は 2～3割減じるが、6割弱の子どもが制作に関心を持っていることは、やはりねぶた・ねぶた本体の魅力に繋がるものと思われる。さらに、「ねぶた・ねぶたの製作・制作のすばらしさ、楽しさは骨組みを組み立てることにある」について青森市 45%、弘前市 49%、全体 47 %で、「ねぶた・ねぶた制作のすばらしさ、楽しさはデザインと色づかいにある」が青森市 73%、弘前市 74%、全体 73 %であり、子どもは、骨組みより色づかいへの感心が高いという。この差は骨組みより色付けを身近で経験しているからと思われる。

(4) 学校の授業・行事でねぶた・ねぶたを取り入れることについての意識(肯定)

学校の授業・行事で「ねぶた・ねぶた祭りを取り入れる」については、青森市 54%、弘前市 59%、全体 56 %で、両市とも小4がねぶた 71%、ねぶた 67%と高い。また、「ねぶた・ねぶたの制作を取り入れる」については、青森市 55%、弘前市 57%、全体 56 %であるが、これも両市とも小4がねぶた 76%、ねぶた 70%と高い。上記両項目は両市とも中2が最も低く、弘前市において高1が平均値であることは注目に値する。

学校調査によれば、ねぶた・ねぶたの参加・練習を取り上げている学校は 36%(両市の小・中学校合計)で、制作を取り入れている学校は 24%(両市の小・中学校合計)であることを考えれば、5割以上の子どもが「取り入れた方がよい」と答えていることに注視する必要がある、特に小学校段階において取り入れることは、子どもの要求に合致し意義あることと考えられる。

(5) ねぶた師・ねぶた絵師、制作小屋参観への意識

「ねぶた師・ねぶた絵師になれるならばなってみたい」について青森市 19%、弘前市 18%であった。両市全体で、小4-33%、小6-14%、中2-15%、高1-17%、さらに「強くそう思う」が両市の全体で、小4-16%、小6-6%、中2-7%、高1-8%と、夢の段階である小学校4年生はともかく、進路を熟考する高校生においても2割近くの生徒が、ねぶた師・ねぶた絵師を進路の一つと考えていることは、ねぶた・ねぶたへの強い意気込みが感じられる。この結果は、ねぶた・ねぶた関係者にとって心強いものといえる。

また、「ねぶた・ねぶた制作小屋に行き、制作風景を見たことがあるか」について青森市 44%、弘前市 38%、全体 41 %であった。両市の6%の違いは、制作現場の位置が関係していると思われる。ねぶたの場合絵師の自宅または工房での制作が主で、貼り付け作業の小屋の設置は6月中旬からで、これに対しねぶたは、小屋の立ち上げが5月上旬でラッセランドに行けばいつでも製作・制作風景を見ることが出来る。しかし、小屋に同一の子どもが足を運ぶ回数は、青森市で平均 2.1 回、弘前市で 3.7 回であり、ねぶたは囃子の練習などを小屋周辺で行うために回数が多くなっていると思われる。

II. ねぶた・ねぶた祭りに対しての子どもの思い（意見）調査

現在のねぶた・ねぶた祭りをよりよいものにしていく目的で、子どもたちが実施形態・内容についてどのように思っているかを「運行コース」「運行時間」「スタート」「審査の評価観点」の四項目で調査した。本調査では、四つの学年の合計値を使用し、学年による異なりを検討する必要性のある項目に限り、学年値を取り上げることにする。

《 ねぶた・ねぶた祭りに対しての子どもの思い（意見）の要約 》

大型ねぶたの運行コース、運行時間については、現在のままでよいが6割前後であり、延長を求める子どもの思いが無視できない数値であるため、諸条件を鑑み来年度へ向けての検討課題となると思われる。一方ねぶたの合同運行のコースと運行時間は、8割弱が現行の方法を支持している。

運行のスタート方法は、両市とも8割弱が現行の方法を支持し、祭り評価の観点については、両市ともねぶた・ねぶた本体と団体全体の運行形態が6割であるが、思いとしてはねぶた・ねぶた本体に傾斜し、運行では囃子に着目している。

(1) 「運行コース」「運行時間」について

青森市の大型ねぶたの運行コースは「現在のままでよい」が64%、「長くする」29%、「短くする」5%で、弘前市の合同運行の「2コースがよい」は77%、「土手町1本」は17%である。また、ねぶたの「運行時間」は「現在のままでよい」が56%、「長くする」36%、「短くする」5%で、ねぶたは、「現在のままでよい」78%で、「短くする」は19%である。

青森市の小学校4年生は、運行コースの延長を36%、時間の延長を40%が求め突出している。弘前市は、学年による違いは少ない。これらから、青森市のねぶたに対して、3から4割の子どもたちが、運行コースと運行時間の延長を望んでいるといえる。

(2) 「運行のスタート方法」について

「運行のスタート方法」について青森市76%、弘前市77%が現在のスタート方法でよい。また、青森市の21%が従来の「吹き流し方式」を、弘前市の20%が「一斉スタート（現在の青森ねぶたのスタート方式）」がよいとのことである。多くの子どもは現行のスタート方法に慣れ親しんでおり、両市とも概ね妥当と思っているといえる。しかし、相互に観覧した子どもから他の方式を指示する思いが2割存在することは注目に値する。また、ねぶたは自由記述の意見の中に、従来の「一斉スタート」を求める声が多い。

(3) 祭り審査の評価観点について

「あなたが祭りの審査委員であったとすれば、祭りの何に注目して評価するか」については、「ねぶた・ねぶた本体と団体全体の運行形態（C）」が青森市62%、弘前市61%で、祭りそのものを総合的に審査するという見方が多い。「ねぶた・ねぶた本体（A）」に限定した見方は、青森市27%、弘前市24%であり、ねぶたは学年が上がるに従い（小4-21%、高1-33%）注目度が高くなるのが特徴的である。「団体全体の運行形態（B）」に限定した見方は青森市8%、弘前市11%で、両市ともねぶた・ねぶた本体への注目が高いことが伺われる。

また、「ねぶた・ねぶた本体の何を主に評価しますか」（上記（A）（C）回答者限定、選択肢より複数選ぶ）では、「迫力」（ねぶた34%、ねぶた32%）が両市とも一番多く、次に「デザイン・色づかい」（ねぶた29%、ねぶた29%）、「構図などのバランス」（ねぶた19%、ねぶた18%）、「面（顔）」（ねぶた14%、ねぶた13%）、「送り絵」（ねぶた4%、ねぶた8%）で、両市とも共通している。

「ねぶた・ねぶた祭りの団体全体の運行形態」（上記（B）（C）回答者限定、選択肢より複数選ぶ）では、ねぶたは「囃子」（28%）「ハネトの踊り方」（19%）「ねぶたの回し方」（19%）、ねぶたは「かけ声」（34%）「囃子」（30%）「ねぶたの回し方」（20%）で、両市とも伝統的な囃子に着目しているといえる。

(4) ねぶた・ねぶた祭りをもっと盛んにするための意見・アイディアー別紙

「ねぶた・ねぶた祭りをもっと盛んにするためのアイディア」を自由記述で求めたところ、多くの子どもたちが提案・記述してくれた。別紙「データ報告書」参照。

Ⅲ. 小・中学校でのねぶた・ねぷたと教育の関わり調査

《 ねぶた・ねぷたと学校教育の関わり調査の要約 》

ねぶた・ねぷたを何らかの内容で取り入れている小・中学校は、全学校の4割強（小学校47%、中学校37%）で、その内金魚ねぶた・ねぷた等の製作・制作を実施している教育課程の領域は、「総合的な学習の時間」が5割と多く、他に小学校はPTA子ども会活動が4割、中学校は行事が6割である。また、合同運行・地域運行・学校独自の祭りへの参加・運行を行っている学校での教育課程の領域は、「総合的な学習の時間」が5割で、他に小学校はPTA子ども会活動が7割強、中学校は行事が4割弱である。

本調査は、2006年12月から2007年1月にかけて青森市・弘前市全小・中学校に依頼した。回収率は両市全体で90.2%で、任意調査としては高い回収率となり、各校のねぶた・ねぷたへの配慮が伺われるものとなった。

①「ねぶた・ねぷたを学校で取り入れているか」で、金魚・本体等ねぶた・ねぷたの製作・制作を行っている学校は、両市合わせて小学校21%、中学校24%、合同運行・地域運行・学校独自の祭りへの参加・運行・練習を行っている学校は、小学校38%、中学校21%で、製作・制作と参加・運行・練習を行っている学校は重なっているところが多いため、4割強（小学校47%、中学校37%）の学校がねぶた・ねぷたを学校教育に取り入れていることになる。

②金魚・本体等ねぶた・ねぷたの製作・制作を行っている学校で取り扱っている教育課程の領域は、教科が両市合わせて小学校19%、中学校30%、「総合的な学習の時間」が小学校48%、中学校50%、特別活動（学級活動等）が小学校5%、中学校20%、行事が小学校14%、中学校60%、PTA子ども会活動が小学校38%、中学校0%である。

③合同運行・地域運行・学校独自の祭りへの参加・運行を行っている学校での教育課程の領域は、教科が両市合わせて小・中学校とも0%、「総合的な学習の時間」が小学校48%、中学校50%、特別活動が小・中学校とも0%、行事が小学校16%、中学校38%、PTA子ども会活動が小学校74%、中学校13%である。この中で、全学年で行事を行っている学校は、小学校4校、中学校1校である。

新学習指導要領で「総合的な学習の時間」が大幅に削減されるため、ねぶた・ねぷたをどの領域で取り上げていくか今後の大きな課題となる。また他の6項目については紙幅の関係で省略するため、資料の『データ報告書』を参照して下さい